

会 社 概 要

会 社 名	株式会社イズミ
本 社 所 在 地	広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
資 本 金	196億1,385万円
設 立	1961年10月27日
従 業 員 数 (連 結)	正社員 4,938人 パートタイマー 12,496人(1日8時間換算) ※2025年2月28日現在
店 舗 数	266店舗(エクセル単独店舗5店舗、ア・フルール プティ単独店舗1店舗含む) ※2025年6月30日現在
店 舗 地 域	広島県、岡山県、山口県、島根県、福岡県、佐賀県、 大分県、長崎県、熊本県、兵庫県、香川県、徳島県 他
事 業 内 容	ショッピングセンター、ゼネラル・マーチャンダイジング・ ストア(GMS)、スーパーマーケット等の業態による衣料品、 住居関連品、食料品等の販売およびインポート事業
グループ会社	(株)ゆめカード(クレジット・金融事業) (株)イズミテクノ(店舗施設管理) イズミ・フード・サービス(株)(外食) 他



作成部署およびお問い合わせ先

株式会社イズミ 経営企画部サステナビリティ推進課
〒732-8555 広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
TEL 082-264-3211(代) URL <https://www.izumi.co.jp/>

イズミグループ

社会・環境報告書 2025

ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY REPORT



地域の未来へ——「youme」あふれる 持続可能な「街づくり」に貢献し続けます。

イズミは創業以来、地域とともに発展したいという想いで
暮らしの夢が広がる「店づくり」、そして「街づくり」に取り組んできました。
イズミとつながるすべての方々の未来を笑顔にするために……。
これからも店舗を中心に、人と人との多彩なつながりを生み出し
みなさまと一緒に、誠心誠意サステナビリティ経営を推進してまいります。



お客さま

高品質な商品とサービスの提供を通して、より便利で快適な暮らしへと導きます。

地域

雇用創出や商店街との回遊性を構築することによって活気を生み、経済効果をもたらします。

テナント

「ゆめタウン」を舞台に店舗づくりの成功事例を作り、さらなる発展につなげます。

社員

地域への貢献を誇りや喜びとし、人間的成長につながるやりがいを生み出します。

イズミの4つの夢

社会・環境報告書の作成にあたって

●編集方針

イズミでは、CSR(企業の社会的責任)に関わる取り組みを多くの方々にご理解いただくために、社会・環境報告書を作成しています。

報告項目の選定に当たっては、ステークホルダーのみなさまの関心事と、イズミが事業活動として重視している事項を考慮して取捨選択し、本書にまとめています。内容としては、CSR活動の中心である店舗・従業員の活動をメインに取り上げています。

記事の作成に当たっては、読みやすさ、理解しやすさに配慮し、写真やグラフ、図などを積極的に取り入れています。

【最新情報について】

イズミホームページにて、最新の取り組みや詳細な情報を紹介しています。併せてご覧ください。 URL <https://www.izumi.co.jp/sustainability/>

●報告書の発行

今回の発行

2025年8月(2024年3月1日～2025年2月28日の取り組み内容)

※一部、2024年3月以前、2025年3月以降の取り組みについても報告を行っています。

次回の発行予定

2026年8月(2025年3月1日～2026年2月28日の取り組み内容)

●報告書の対象

株式会社イズミの取り組みを基本として、グループ会社も一部含まれています。

●対象読者

お客さま、店舗の近隣住民のみなさま、行政、お取引先様、株主のみなさま、学生、NPO、NGO、投資家のみなさま、従業員など

c	youme MIRAI Action	3
o	店づくり最新トピックス	5
n	トップメッセージ	7
t	株式会社イズミ 代表取締役社長 町田 繁樹	7
e	お客さまに晴れやかな時間と空間を	9
n	地域貢献で活気あふれる街づくりを	15
t	お取引先様と連携してさらなる繁栄を	23
s	社員が自分らしく活躍できる職場環境を	25

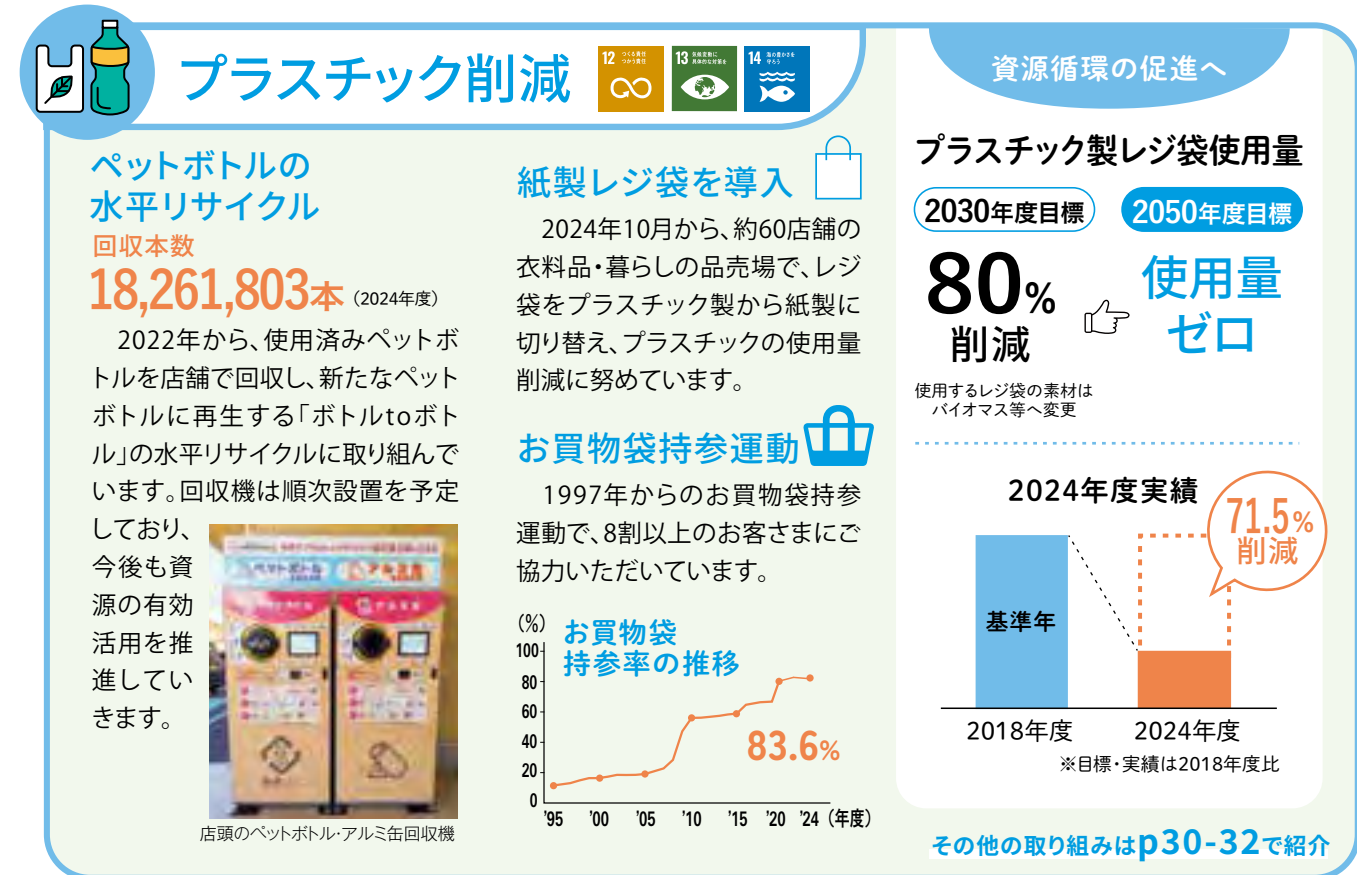
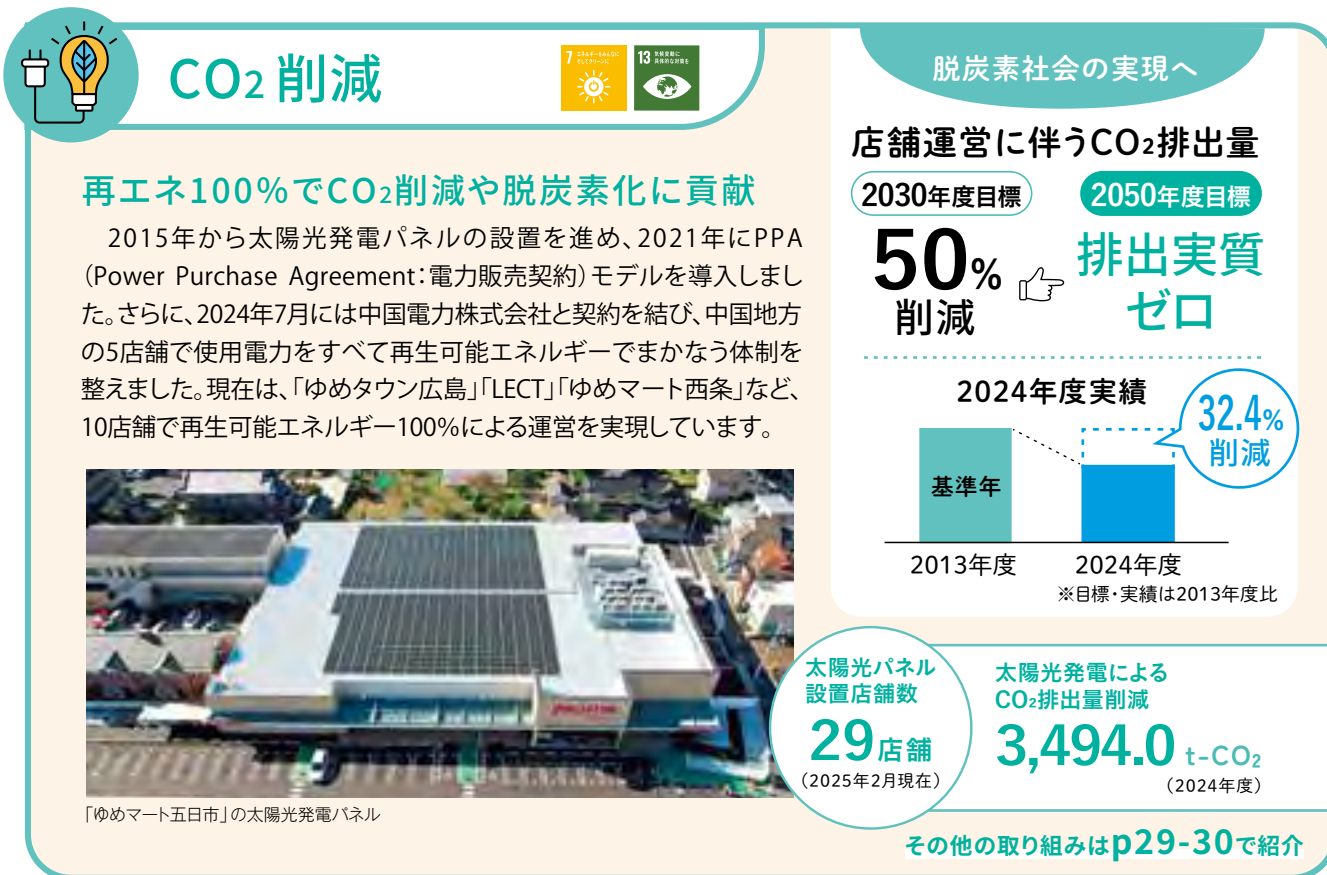
2025 youme eco action

省エネ・創エネ活動	29
リサイクル・リユース推進	31

グループ会社サステナビリティレポート	33
--------------------	----

ESG関連ガイドライン

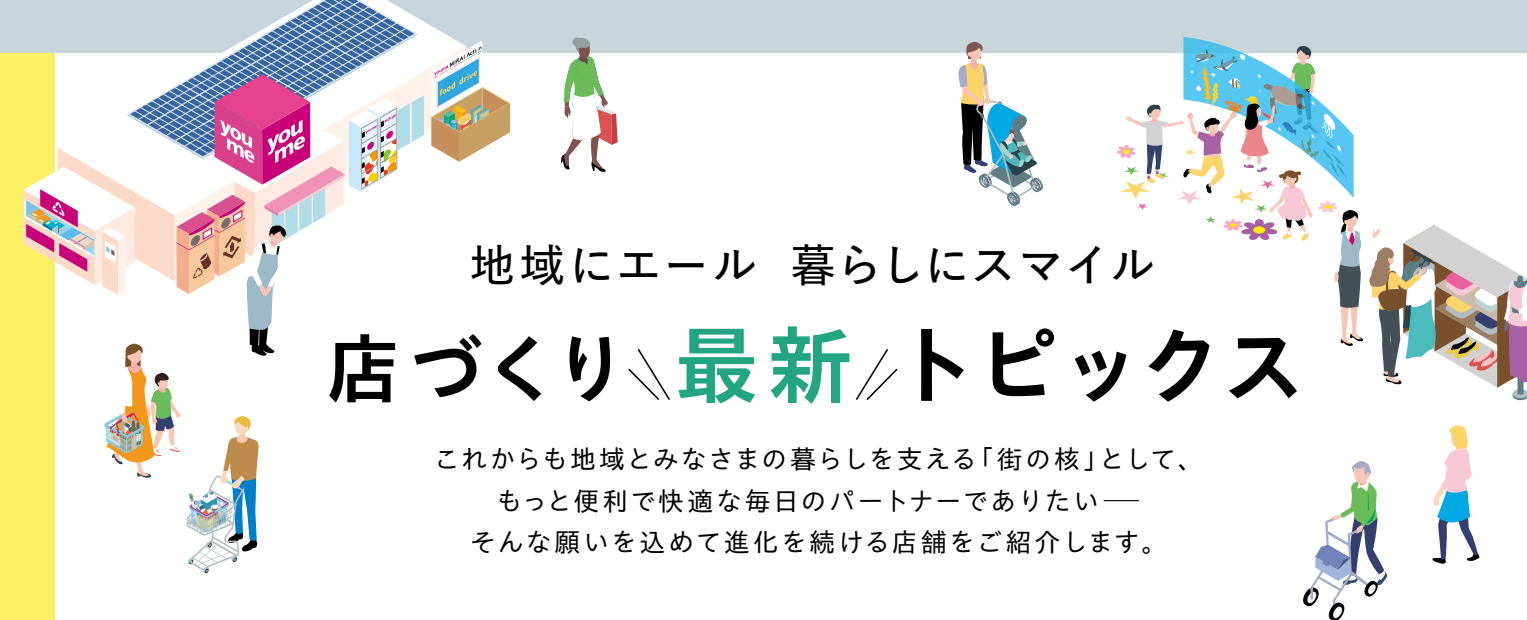
経営理念の実現に向けた各種方針	35
株主のみなさまへ適時情報を開示	37
コーポレートガバナンスを一層強化	38



youme MIRAI Action

事業活動を通じて持続可能な社会を築いていくために、イズミグループが2050年までに目指す姿を「youme MIRAI Action」にまとめ、数値目標を設定。具体的な取り組み内容を定め、全従業員が日々の業務の中で、積極的に活動しています。





地域にエール 暮らしにスマイル

店づくり最新トピックス

これからも地域とみなさまの暮らしを支える「街の核」として、
もっと便利で快適な毎日のパートナーでありたい—
そんな願いを込めて進化を続ける店舗をご紹介します。

Topic 01 スクラップ&ビルドで地域密着型モールへ再生

ゆめモール五日市

2024年9月12日
第1弾オープン



広島市佐伯区の「ゆめタウン五日市」（1977年開業）を建て替えて再生しました。駐車場を囲むように、食品スーパー「ゆめマート五日市」と専門店を配置し、短時間で買物ができるよう利便性を高めています。

地場野菜が充実

小商圏のお客さまに向けた店づくりの一環として、生産者さんの顔が見える地場野菜の取り扱いを強化しています。



冷凍食品を強化

子育て世代や共働き世帯、シニア層などの「即食・簡便」ニーズに応え、冷凍食品売場を旧店舗の3倍に拡大しました。



ゆめモール山陽

2025年6月12日
グランドオープン



岡山県赤磐市にある「ゆめタウン山陽」（1998年開業）を建て替え、岡山県初となる「ゆめモール」形式の店舗を開業しました。敷地内に「ゆめマート山陽」と、飲食や生活雑貨など13のテナントを集約し、生活利便性向上に貢献していきます。

岡山名物を強化

瀬戸内の海の幸をのせたばら寿司（ちらし寿司）や、ごはんの上に唐揚げをのせたりめしなど、岡山名物がずらりと並びます。



SDGs活動を発信

「ゆめマート山陽」入口にSDGs情報コーナーを設置し、食品ロス削減や資源回収などへのご協力を呼びかけています。



Topic 02 話題の広島新駅ビル「ミナモア」に2店舗を出店

ア・フルール プティ minamoa広島店

2025年3月24日
グランドオープン



バラエティコスメショップ単独店として、初めて自社以外の商業施設に出店しました。イズミ初展開となる海外コスメブランドをはじめ、国内外のナチュラル&オーガニック商品が充実。丁寧な接客にも力を入れています。

アバンセ minamoa広島店

2025年3月24日
グランドオープン



ユアーズが展開する、「日常+高質」をテーマとした食品スーパーです。全国の逸品やこだわりの生鮮食品、惣菜やお弁当を豊富にそろえています。広島の銘品も多数扱っており、おみやげとしても好評をいただいています。

Topic 03 九州の地で、これまでも、これからも九州出店30周年

2025年は、九州1号店「ゆめタウン遠賀」（福岡県）の開業から30年の節目にあたります。長年のご愛顧に感謝してキャンペーンを実施したほか、特設サイトで九州出店の歩みを紹介しました。



Topic 04 1号店は1990年にオープン ゆめタウン35周年

1990年に誕生した「ゆめタウン」は、2025年に35周年を迎えました。今後も地域の「街の核」として、暮らしの夢をひろげていきたいという決意を込め、6月に35周年祭を開催。35にちなんで35g増量企画や、35円割引企画などを実施しました。



新店はもちろん既存店でもSDGsを積極的に推進しています

再生可能エネルギー
100%使用



健康配慮商品コーナー
新設



リサイクルステーション
設置



従業員向け
SDGs研修実施





トップメッセージ

私たち企業は、地域や社会と無関係には存在できません。創業以来その信念を形にしてきたのが「地域一番店」という言葉であり、「地域・お客さま・社員・テナント」というイズミ4つの夢でした。従業員の多くはその地域で暮らす一員であり、その家族も例外ではありません。テナント様やお取引先様も同様です。互いに影響し合う共生の関係性のなか、私たちは生き続けています。

しかし一方、気候変動や災害、または少子高齢化などの社会変化はそうした持続可能性を脅かすものです。2014年以降西日本で多発した自然災害で、私たちは持続があたりまえのものではないことを

学びました。地域に住まう被災者自身として、また逆に、生きるための糧を地域につなぐライフラインの担い手として、その“有り難さ”を痛感したのです。

2021年制定の経営理念「社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける」は、創業以来の想いを基盤に、これまで以上に積極的に地域へ関わっていく決意を宣言したものです。その想いは長期目標である「『暮らしやすく、人口が増えるまちづくり』への貢献」や2023年制定の「イズミグループ健康経営宣言」にも受け継がれています。

持続的な社会の実現には、強い想いと同時に

日々の具体的な努力が欠かせません。そのために必要な数々の取り組みを●地域・お客さま ●環境 ●安全・安心 ●ダイバーシティ という4つのマテリアリティ(重点課題)に集約し、2050年度までに目指す姿として「youme MIRAI Action」を掲げ、日々取り組みを重ねています。

例えば各地の自治体と結んだ「災害時における物資協定」や「避難施設の協定」は60を超えます。毎年その数は増え続け、雇用創出や産業振興、子育て支援まで含めた総合的な「包括協定」まで加えるとその数は100以上となります。また、持続的な事業活動に影響を及ぼす可能性がある気候変動問題に対応するため、店舗運営に伴うCO₂排出量・プラスチック製レジ袋使用量の削減に取り組んでいます。

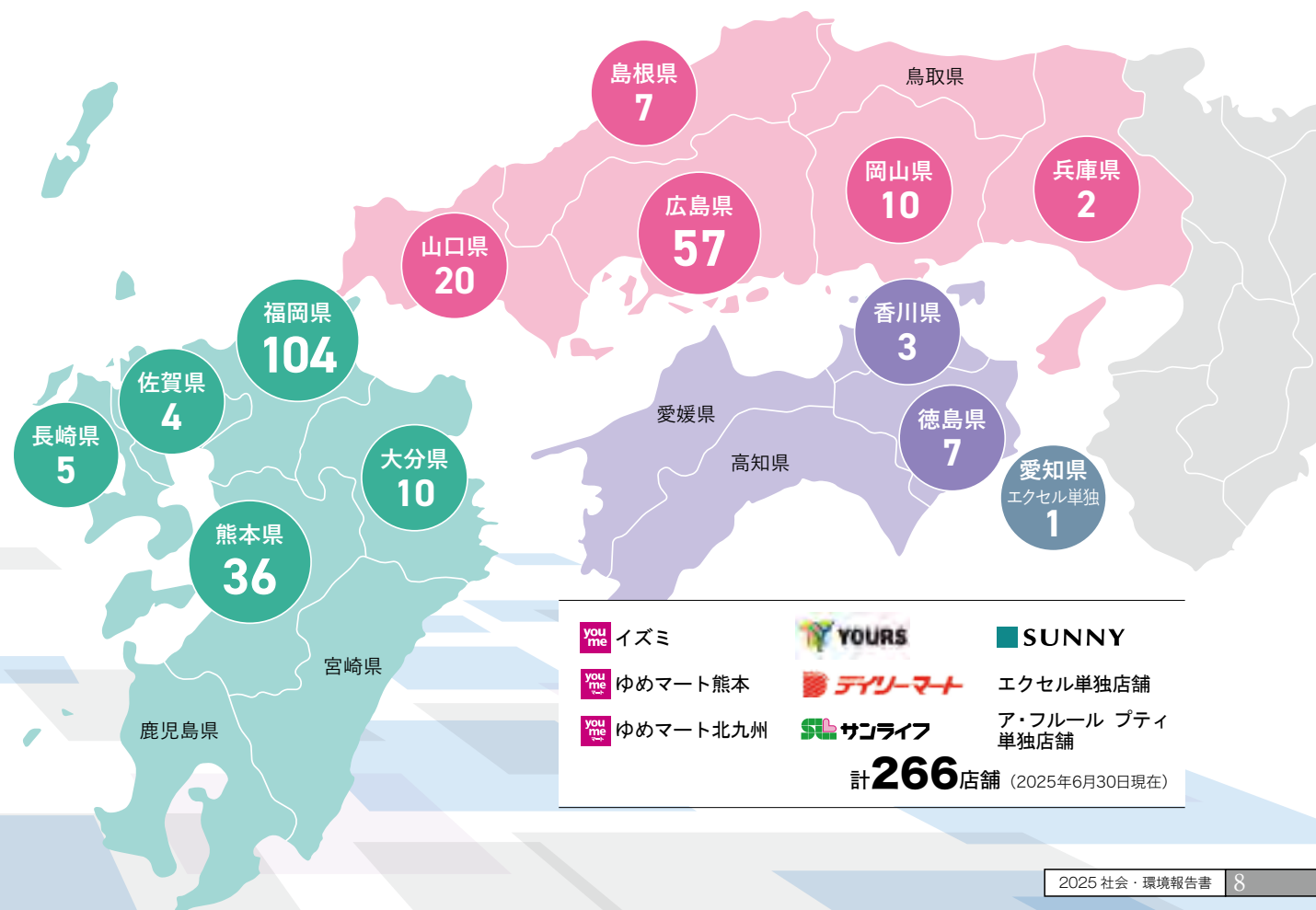
その他にも、ゆめタウンでは地元自治体や組織と協働した子育て支援センターの設置にも取り組んでおり、今後フロア丸ごとを支援センターにする店舗の計画もあります。こういった場所をきっかけとしてご家族連れや若い世代の方が増えれば、ご

高齢のお客さまにも活気がある「多世代」という状況を生み出し、街全体の活性化にもつながるのではないのでしょうか。子育て支援環境を魅力と考え移住される方も増えるかもしれません。やがて生まれたお子さまが新たなお客さまになってくださる…そんな長期的な夢も、サステナビリティのやりがいの一つだと考えています。これは社内においても同様に、子育て中の従業員に限らずさまざまな状況の従業員が働きやすい休暇制度や支援体制を具体的に、一つひとつ整備し人的資本経営の強化に努めています。

豊かさは、一つひとつの具体的な取り組みによって守られ、積み重なり、未来へと続いていきます。イズミグループはこれからも、“事業活動”と“社会課題の解決”の両立に挑み、具体的な実行策をもとに持続可能な社会の実現に貢献してまいります。今後とも変わらぬご理解・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日々の貢献が暮らしやすさを育み、 また新たな豊かさへ…そんな、 長期的な「夢」こそ私たちが目指すものです。

株式会社イズミ 代表取締役社長 町田 繁樹





お客さまに 晴れやかな時間と空間を

お客さまの想いに深く寄り添い、常に安全・快適な空間で
期待を上回る商品やサービスの提供に取り組めます。



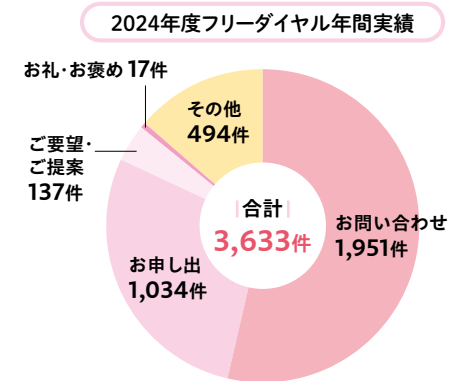
「ゆめテラス祇園」で 5年ぶりに「盆おどりフェスタ」

2024年8月2日・3日、「ゆめテラス祇園」で5年ぶりに「盆おどりフェスタ」を開催しました。「いづみ祇園ショッピングセンター」（1973年開業）時代から親しまれてきた盆踊りの再開とあって、約8,000人が来場。キッチンカーの夜店やうちわ抽選会などを楽しみ、にぎやかな踊りの輪を大きく広げました。今後も盆踊りを継続して開催し、地域のコミュニティづくりに貢献を図ります。



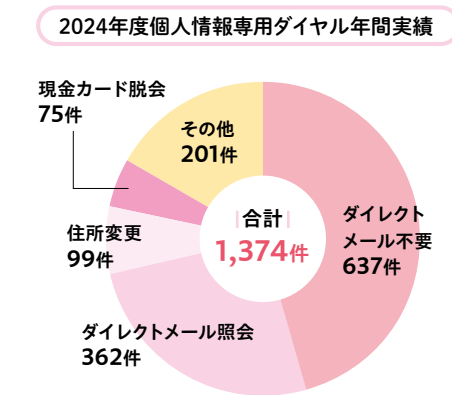
「お客さまの声」を 店舗運営に反映

本社の「お客さま相談室」は、お客さまからのお申し出やご要望をお伺いする窓口です。フリーダイヤルはもちろん、店頭の記入用紙を通じて集まったご意見を、一つずつ丁寧に検討。品ぞろえの充実やサービスの改善などにつなげています。



法令を遵守し 個人情報情報を管理

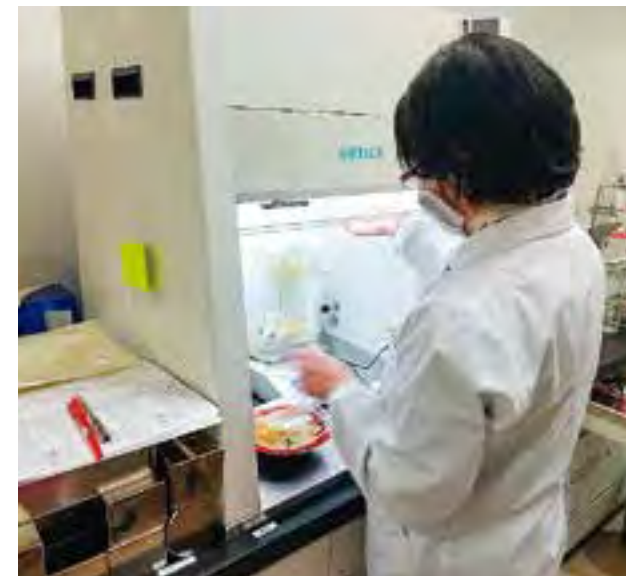
お客さまの大切な個人情報適切に管理するため、法令に沿ってプライバシーポリシーを制定しています。ご予約などの際にお預かりしたご住所やお名前などは、鍵付きロッカーや管理台帳を用いて保管。慎重な取り扱いを進めています。



全方向から品質管理を強化

お客さまに安全な食品を提供するため、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理計画を実行しています。各店舗では年2回、外部機関による監査を行い「安全・安心」な商品製造・販売を確認しています。

さらに、本社の品質管理検査室でも惣菜などの細菌検査を実施して、品質保証を強化しています。



本社の品質管理検査室

食品従事者向けに実施 食品安全の認定試験

食品従事者を対象に「食品安全研修」を継続的に実施中です。鮮度や温度管理、表示管理などの知識を習得して、食の安全を確実に守る体制を整えています。

2024年度には動画を用いた研修を開始し、まずは管理職を対象に「食品安全ライセンス検定」を行い、432人が合格しました。今後は一般職を対象に検定を実施し、より強固な安全管理体制を整えていきます。



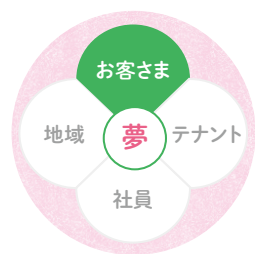
青果の鮮度や表示をチェック

「ゆめタウン吉田」が 厚生労働大臣表彰

店舗では、従業員一人ひとりが日頃から健康管理に気を配るとともに、衛生管理を徹底するよう努めています。地道な取り組みをご評価いただき、2024年には「ゆめタウン吉田」が厚生労働大臣より食品衛生優良施設として表彰されました。この受賞を励みにさらに体制を強化し、厳密な鮮度チェックや調理手順の適正化などを実施しています。



左から2番目が「ゆめタウン吉田」の須藤店長(当時)



お客さまに晴れやかな時間と空間を

「ゆめデリバリー」定額サービス開始

広島市や福岡市、熊本市などで運営しているネットスーパー「ゆめデリバリー」。2024年5月30日から、配送料の定額サービスを導入しています。何度利用しても月額660円(税込)で、使えば使うほどお得です。子育て中のママ・パパを応援する月額330円(税込)のプランも設けています(妊娠中からお子さまが小学校に入学する前までが対象)。



「ゆめデリバリー」ホームページバナー

完全個室の授乳室が登場

可動式ベビーケアルーム「mamaro」を、「ゆめタウン徳島」に導入しています。室内は1畳ほどの広さで内側から施錠でき、プライバシーが保てる完全個室。授乳やオムツ替え、着替えなどに幅広くお使いいただけます。専用のスマホアプリを使うと、リアルタイムで空室情報を確認することが可能です。

「mamaro」はキャスター付きで移動が簡単。イベント開催時などは従業員が設置場所を変更し、お子さま連れのお客さまの利便性向上に努めています。



哺乳瓶のイラストが目印

「ゆめタウン飯塚」でレジの通路幅を拡大

「ゆめタウン飯塚」は、福岡県飯塚市・嘉麻市・桂川町と(一社)飯塚青年会議所による「こどもはこのまちの未来だ!宣言」の協力店です。子育て世代への配慮として、レジの通路幅を広げた「ゆとりレーン」を全国で初めて設置しました。ベビーカーやカートはもちろん、車いすでもゆったりと通ることができます。



お子さま用のきゃらくるカートもゆとりをもつて通過

「+」「-」表示で健康づくりを支援

毎日の健康づくりに役立てていただくため、加工食品売場に「+」と「-」の表示をつけた棚を設置しています。「+」の棚は、栄養補助食品や乳酸菌、タンパク質など、積極的に摂取したい栄養を含む商品を陳列しています。それに対して「-」の棚は、摂取をコントロールしたい成分が考慮された食品のコーナーです。例えば、カロリー・塩分コントロール商品、植物性食品、アレルギー配慮商品などが並んでいます。

「+」「-」の棚は、2024年度実績で10店舗に導入。今後も新店オープンや食品売場リニューアルの際に設置を進めていき、2025年度は10店舗に新設する予定です。



積極的に摂取したい栄養を含む商品を展開

摂取をコントロールしたい成分が考慮された商品を展開

「ゆめタウン浜田」きゃらくるカート増設

カラフルなきゃらくるカートはお子さまたちが喜んで乗ってくれるため、保護者のみなさまが買物に集中できると好評なアイテムです。「ゆめタウン浜田」では、お客さまの声に応じて、10台を追加導入。既存のカートと合わせて合計14台を備え、年末年始やお盆など来店客数が多い時でも不足することがなくなりました。



カートを整理する「ゆめタウン浜田」の森脇店長(当時)

CS部を新設 さらなるサービス向上を

2025年3月の組織変更で、お客さま満足度向上を目的に「CS部」が誕生しました。CS部には、CS課とレジ統括課を設置。お客さまや従業員の声に真摯に向き合い、サービスの質と業務効率を高めることで、より快適で安心な店舗づくりを進め、「イズミ推し」のお客さまを増やしていきます。
※CSはCustomer Satisfactionの略で、顧客満足度を意味します。



笑顔の接客を実践するレジ従業員

西日本初 スーパーにカラオケ店導入

2024年9月28日、グループ会社のゆめマート北九州の「ゆめマート川棚」にカラオケ店がオープンしました。スーパーへの導入は西日本初。家族や友人同士のお出かけの場に、またシニアの交流の場として活用され、新たなコミュニティスペースとして注目されています。店内で購入した惣菜や飲料が持ち込める点も大変喜ばれています。



買物帰りに立ち寄り、カラオケを楽しめる

熊本県山都町で移動販売を開始

2024年8月2日、グループ会社のゆめマート熊本は熊本県山都町で移動販売車の運行を開始しました。同町は集落が山間部に点在し、高齢化率は50%を超え、買物支援を必要とする方が多数いらっしゃいます。日々の生活に必要な生鮮品や惣菜、日用品などを「ゆめマート新外」で積み込み、週6日、買物が不便な地区を中心に巡回しています。

ゆめマート熊本は山都町との地域包括連携協定に基づき、買物支援に加えて、高齢者の見守りやコミュニティづくりに貢献。さらなる地域社会発展への貢献を目指します。



移動販売車の出発式の様子

「ゆめテラス祇園」災害用トイレや給水システム

地域の防災拠点を目指して、「ゆめテラス祇園」は2つの設備を備えています。1つは、災害用トイレを接続できる排水マスです。排泄物を下水道へ直接流すことができ、衛生的なトイレを迅速に確保できます。もう一つは、受水タンクの災害時用給水栓(蛇口)で、停電時や断水時でも、タンク内の水を地域のみなさまに供給することができます。



災害用トイレを接続可能な排水マス



災害時用給水栓



お客さまに晴れやかな時間と空間を

環境・社会・経済に配慮した 「持続可能な商品」の取り扱いが増加

環境にやさしい魚を販売

「マリン・エコラベル・ジャパン」（略称 MEL）は、日本発の水産エコラベル認証制度です。環境にやさしい漁業・養殖を行う事業者とその商品に、認証が付与されます。小売事業者として、MEL 認証商品を積極的に販売。店頭で販促物を掲示し、おいしく食べて持続可能な社会づくりに貢献できる商品として、お客さまにアピールしていきます。



店頭に並ぶMEL認証商品

濃厚な味わい「平飼いたまご」

「平飼いたまご」は、鶏舎や屋外の養鶏場で放し飼いされ、のびのびとストレスなく育てられた鶏の卵です。コクがあって濃厚な味わいがお客さまに好評で、要望を受けて取り扱い店舗を増やしています。



店舗で取り扱っている「平飼いたまご」の一例

陸上で養殖「みらいサーモン」

福岡県産の「みらいサーモン」は、豊前市の地下水と豊前海の海水を利用した陸上養殖プラントで育てられ、安全・安心の商品開発を実施しています。プリプリの食感が魅力で、「ゆめタウン行橋」での試食販売会で大好評でした。



「ゆめタウン行橋」で陸上養殖サーモンを販売

地場野菜コーナーが各地で人気

地産地消を広め、地域農業を応援するため、各地の店舗に地場野菜の販売コーナーを開設しています。お客さまには新鮮な野菜が手頃な価格で購入できると好評です。産地と店舗が近いことから、輸送にかかるCO₂排出量削減効果も見込んでいます。



地元で取れた農産物の販売コーナー

「怪獣レモン」がチューハイに

ゴツゴツした規格外の瀬戸内レモンを、怪獣に見立ててブランド化した「怪獣レモン」。その爽やかな風味を生かし、チューハイを独自開発。インパクトのあるパッケージで売り出し、食品ロスの削減や地域産業活性化に貢献しています。



怪獣レモンチューハイ（左）、怪獣はつくチューハイ

地球と素肌にやさしいTシャツ

「COTTON USA」は、高品質なアメリカ産コットンの認証マークです。このマークがついた生地は、肌ざわりが柔らかく、丈夫で長持ちするのが特徴。水や農薬をできるだけ減らして育てられた、サステナブルなコットンとしても注目されています。「ゆめタウン」では、紳士服・婦人服売場でTシャツを販売。素材のよさと、着回しやすいデザインで売れ行き好調です。



※写真は一例で、商品は季節ごとに入れ替わります

高校生・大学生が育てた畜産物を販売

各地の高校生・大学生が丹精込めて育てた牛肉や豚肉、果物を、イズミグループの店舗で販売しました。生徒・学生のみなさんによる試食販売も行われ、売場は大盛況。パネル展示により、肥育・栽培に全力で取り組む様子も紹介しました。



鹿児島県立鹿屋農業高等学校の肥育発表会



香川県立笠田高等学校の生徒が育てた豚肉の売場は大盛況



広島県立西条農業高等学校は第8回和牛甲子園最優秀賞受賞

豚肉・牛肉販売

販売日	学校名	販売品目
2024年 5月16日	広島県立西条農業高等学校	牛肉
2024年 6月15日	熊本県立熊本農業高等学校	豚肉
2024年 6月29日	香川県立笠田高等学校	豚肉
2024年 7月 6日	香川県立農業経営高等学校	豚肉
2024年 8月10日	徳島大学	豚肉
2024年 8月24日	香川県立笠田高等学校	豚肉
2024年 9月21日	広島県立西条農業高等学校	牛肉
2024年10月 5日	熊本県立菊池農業高等学校	豚肉
2024年10月12日	鹿児島県立鹿屋農業高等学校	豚肉
2024年10月19日	広島県立庄原実業高等学校	牛肉
2024年10月19日	徳島大学	豚肉
2024年10月26日	福岡県立糸島農業高等学校	牛肉
2024年10月27日	東海大学	豚肉
2024年11月 2日	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科	牛肉
2024年11月 9日	島根県立農林大学校	牛肉
2024年12月14日	長崎県立農業大学校	牛肉

販売日	学校名	販売品目
2024年12月20日	熊本県立農業大学校	牛肉

販売日	学校名	販売品目
2025年 2月 1日	福岡県立糸島農業高等学校	牛肉
2025年 2月 8日	佐賀県立唐津南高等学校	牛肉
2025年 2月 9日	広島県立西条農業高等学校	牛肉
2025年 2月15日	広島県立庄原実業高等学校	牛肉
2025年 2月16日	大分県立久住高原農業高等学校	牛肉
2025年 2月22日	岡山県立瀬戸南高等学校	牛肉
2025年 2月22日	鹿児島県立鹿屋高等学校	牛肉

和牛甲子園出場校

販売日	学校名	販売品目
2024年 8月24日	香川県立笠田高等学校	笠高フェス（農産物の販売）
2024年10月12日	鹿児島県立鹿屋高等学校	和牛肥育発表会
2024年10月15日	香川県立農業経営高等学校	研究成果発表会

広島修道大学と惣菜を共同開発

広島修道大学とイズミは、2024年に商品開発に共同で取り組みました。商学部の学生16人が勉強会や売場見学、商品提案、試食、改良などに参加し、「ポテサラスティックン」「おにぎらず」「韓国満喫セット」「プレスクロワッサン」の4品を商品化しました。2024年11月2日から9日間は、広島県内の16店舗で実際に販売。若い感性を生かした商品が好評を呼びました。



店頭でお客さまの反応を確認する
広島修道大学のみなさん

小学生考案の Pasta を商品化

カゴメ株式会社が2024年に開催した「夏休みにびったり！新ご当地メニュー『ひろしまパスタ』を大募集！」の入賞作品を、イズミで商品化しました。2025年3月～5月に広島県内30店舗で販売し、小学生が考案したパスタを通じて、広島の多彩な食の魅力を発信しました。



レシピを考案した小学生とイズミデリカ本部の柳井本部長



ぜいたく広島
まぜまぜパスタ

広島ハワイ
トマトパスタ

高校生が生マグロを解体

2024年11月16日、「ゆめタウン飯塚」で生マグロ解体イベントが開催されました。福岡県立水産高等学校の生徒のみなさんが、実習の成果を生かし、大きなマグロを巧みな包丁さばきでカット。元気いっぱいの呼び込みも行われ、売場は活気に包まれました。



保護者のみなさまも集まり大盛況



地域貢献で 活気あふれる街づくりを

行政や企業、教育機関、NPO 法人などとの連携を図り
元気な街づくりと、地域の課題解決に貢献します。



「イズミメイプルレッズ広島」 ハンドボール「リーグ^{エイチ}H」に参入

女子ハンドボールチーム「イズミメイプルレッズ広島」は、2024年9月に新リーグ「リーグH」に加盟しました。地域社会との融合を目指す「リーグH」への参入を機に、新たにファンクラブを設立し、ハンドボール活動を通じて広島を盛り上げていきます。選手一同、地域のみなさまに夢と活力を届けようと、日々全力でプレーしています。

※「リーグH(エイチ)」は、地域密着を意味する「ホーム」、希望の「ホープ」の頭文字のHからとり、「英知(エイチ)」を集め、成長するという意味もこめられています。

メイプルレッズ選手が小学生とふれあい

2025年3月16日、イズミテクノが指定管理者を務める岩国市総合体育館で、「イズミメイプルレッズ広島」の公式戦を開催しました。同日午前には、メイプルレッズの選手が地元の小学生を指導する「ふれあい教室」も実施し、にぎやかな1日となりました。イズミテクノは今後も各種スポーツの公式戦を誘致し、地域スポーツ振興への貢献を図ります。



小学生と選手たちが笑顔で記念撮影



地元ゆかりの選手への花束贈呈式

カープファン感謝デー トークショーを開催

イズミは広島東洋カープのスポンサー企業として、「youme」のロゴを掲げてチームを応援しています。2024年11月23日開催の「カープファン感謝デー2024」では、選手とのキャッチボールや写真撮影などが行われ、イズミはプレミアムトークショーを企画。抽選で選ばれたお客さまを前に、選手2人が2025シーズンへの意気込みを語り、会場は大いに盛り上がりました。選手とファンの交流が生まれ、スポーツを通じた地域とのつながりも一層深まる機会となりました。



プレミアムトークショーの様子

サンフレッチェ広島 熱戦をサポート

イズミはサンフレッチェ広島(男子・女子)のスポンサー企業として、チームを応援しています。2024年7月14日に、エディオンピースウィング広島でスポンサーゲームを開催。試合後に「プレーヤー・オブ・ザ・マッチ(この日最も活躍した選手)」に選ばれた大橋祐紀選手を、イズミマーケティング本部の沼本本部長が表彰しました。



大橋選手(右)とイズミの沼本本部長(当時)

広島ドラゴンフライズ スポンサーゲーム

2025年3月23日、広島サンブラザホールで広島ドラゴンフライズのゆめタウンスポンサーゲームを開催しました。この試合で「マン・オブ・ザ・マッチ(最優秀選手)」に選出されたドウェイン・エバンス選手を、イズミ経営企画本部の山西本部長が表彰し、健闘を心からたたえました。



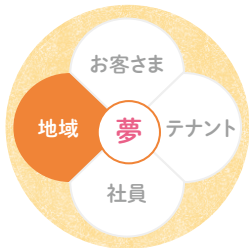
エバンス選手(左)とイズミの山西本部長(当時)

泉美術館で広島出身の 画家3人の展覧会

2024年に泉美術館では、広島出身の画家3人の展覧会を開催しました。これは2025年の被爆80年を目前に控え、芸術を通じて平和を考える機会として企画されたものです。8月～9月に開かれた植田信隆絵画展では、被爆作家・原民喜の詩に触発された印象的な作品が展示され、多くの人がじっくりと見入っていました。



植田信隆絵画展の様子



地域貢献で活気あふれる街づくりを

広島修道大学の学生向けに集中講義

広島修道大学とイズミは包括的連携協定に基づき、産学連携事業に取り組んでいます。その一環として、イズミ本社で集中講義「総合小売業界を学ぶ」を開催しました。期間は2024年7月31日～8月2日の3日間で、商学部の3・4年生57人が受講。イズミの本部長・課長が教壇に立ち、自社の歴史や出店戦略、商品開発、地域貢献活動などを通じて、小売業の仕組みと最新の消費者動向について講義しました。



商品の開発秘話について語る食品本部の山野本部長

自治体と協定 災害時等の対応で連携

近年、大型台風やゲリラ豪雨が増えていることから、行政との協定で災害時における連携を強化しています。イズミはこれまで、豪雨災害や地震が発生した際には、迅速に食品や水を供給してきました。今後も、避難場所の提供などに幅広く貢献していきます。また、行政と包括連携協定を結び、産業振興や子育て支援、環境保全などの地域課題解決にも協力していきます。



筑紫野市の平井市長(左)とGMS本部の小林本部長(当時)

行政との協定一覧 (2025年6月30日現在)

■ 包括協定			
締結年	県・市・町・大学名	締結年	県・市・町・大学名
2011年	広島県	2023年	中津市(大分県)
	熊本県		大牟田市(福岡県)
2015年	廿日市市(広島県)		益田市(島根県)
2016年	山口県		荒尾市(熊本県)
	周南市(山口県)		広島修道大学(広島県)
2017年	広島大学(広島県)		下関市(山口県)※2
	宗像市(福岡県)		出雲市(島根県)
2018年	下松市(山口県)		江田島市(広島県)
2021年	岩国市(山口県)	2024年	浜田市(島根県)
2022年	高梁市(岡山県)		丸亀市(香川県)
	高松市(香川県)		別府市(大分県)
	安芸高田市(広島県)		佐賀市(佐賀県)
	藍住町(徳島県)		北九州市(福岡県)
	菊陽町(熊本県)		筑紫野市(福岡県)
	武雄市(佐賀県)		宇城市(熊本県)※1
	井原市(岡山県)	2025年	大竹市(広島県)
	行橋市(福岡県)		周防大島町(山口県)
	大川市(福岡県)		赤磐市(岡山県)
	東広島市(広島県)		
	柳井市(山口県)		
	八女市(福岡県)		
	防府市(山口県)		
	長崎市(長崎県)		
	三豊市(香川県)		
	江津市(島根県)		
2023年	山口市(山口県)		
	飯塚市(福岡県)		
	呉市(広島県)		
	八代市(熊本県)		
	久留米市(福岡県)		
	熊本市(熊本県)※1		
	筑後市(福岡県)		
	宇部市(山口県)		

■ 食品ロス削減に向けた協定			
締結年	県名	締結年	県名
2023年	徳島県		

■ 気候変動適応法に基づく指定暑熱避難施設に係る協定			
締結年	市・町名	締結年	市・町名
2024年	大牟田市(福岡県)		
	佐賀市(佐賀県)		
	三豊市(香川県)		
	筑紫野市(福岡県)		
	荒尾市(熊本県)		
	菊陽町(熊本県)		
	熊本市(熊本県)		
	下松市(山口県)		
	丸亀市(香川県)		
	福岡市(福岡県)		
	行橋市(福岡県)		
	岩国市(山口県)		
	八代市(熊本県)		
	井原市(岡山県)		
	府中市(広島県)		
	益田市(島根県)		
	長崎市(長崎県)		
	玉名市(熊本県)		
	福山市(広島県)		
	東広島市(広島県)※8		
	呉市(広島県)		
	八女市(福岡県)		
	別府市(大分県)		

■ 避難施設の協定			
締結年	県・市・町名	締結年	県・市・町名
2011年	中津市(大分県)		
	藍住町(徳島県)		
2012年	呉市(広島県)		
	別府市(大分県)		
	大竹市(広島県)		
2015年	廿日市市(広島県)		
2017年	広島市(広島県)※5		
2018年	下松市(山口県)		
2019年	福山市(広島県)		
	出雲市(島根県)		
2021年	武雄市(佐賀県)		
2022年	大内連合自治体(山口県)		
	益田市(島根県)		
	東広島市(広島県)		
2023年	逸賀町(福岡県)		
	香川県※6		
	熊本市(熊本県)※1		
	広島市(広島県)※7		
	江津市(島根県)		
2024年	真庭市(岡山県)		
2025年	高梁市(岡山県)		

■ 災害時における物資協定			
締結年	県・市・町・施設名	締結年	県・市・町・施設名
1998年	津山市(岡山県)		
2005年	香川県		
2006年	福岡県		
	広島県		
	佐賀県		
2007年	熊本県		
	山口県		
	島根県		
	長崎県		
	菊陽町(熊本県)		
	合志市(熊本県)		
	高松市(香川県)		

■ 避難施設含む ※4窓口は玉名市			
2008年	防府市(山口県)		
	瀬戸内市(岡山県)		
	丸亀市(香川県)		
2009年	宗像市(福岡県)		
	大牟田市(福岡県)		
2010年	熊本市(熊本県)		
2011年	大川市(福岡県)		
	藍住町(徳島県)		
	遠賀町(福岡県)		
2012年	行橋市(福岡県)※3		
	広島市(広島県)		
	赤磐市(岡山県)		
2013年	井原市(岡山県)		
	八女市(福岡県)		
	佐賀市(佐賀県)		
	うきは市(福岡県)		
	大竹市(広島県)		
	八代市(熊本県)※3		
2014年	周南市(山口県)※3		
	公立玉名中央病院(熊本県)※4		
2015年	廿日市市(広島県)		
2016年	山口県警察本部(山口県)		
2018年	三豊市(香川県)		
	下松市(山口県)		
2019年	出雲市(島根県)		
2020年	柳井市(山口県)		
2021年	武雄市(佐賀県)		
2022年	下関市(山口県)		
	益田市(島根県)		
	浜田市(島根県)		
2023年	東広島市(広島県)		
	江津市(島根県)		
	福山市(広島県)		

※1ゆめマート熊本含む ※2ゆめタウン・ゆめマート4店舗、ゆめマート北九州4店舗 ※3避難施設含む ※4窓口は玉名市
※5LECTのみ対象 ※6武力攻撃事態等／ゆめタウン高松のみ対象 ※7車中避難／ゆめタウン広島、LECT ※8ゆめタウン東広島、ゆめタウン学園店

筑後市で循環バス運行に協力

2024年10月から、福岡県筑後市で循環バスの実証運行が行われています。バスは「ゆめマート筑後」などのスーパーや病院、市役所を巡り、日常の買物や通院に役立てられています。「ゆめマート筑後」では利用促進キャンペーンを実施。循環バスで来店した方への特典として商品券をプレゼントする企画で、地域のみなさまに乗車を呼びかけました。
※2025年10月より本格運行予定



「ゆめマート筑後」での出発式に、西田市長が参加

熱中症予防の避難場所を提供

「ゆめタウン大牟田」指定暑熱避難施設に係る協定締結

2024年5月24日、大牟田市と「ゆめタウン大牟田」が指定暑熱避難施設に係る協定を締結しました。これは気候変動適応法に基づくもので、危険な暑さから避難する場所「クーリングシェルター」に、イズミの店舗として初めて指定を受けました。



協定を締結した大牟田市の関市長(左)と海谷支配人(当時)

「ゆめタウン井原」クーリングシェルター

井原市の指定を受け、「ゆめタウン井原」は暑さをしのぐ場所として、営業時間中に店舗を開放しています。6月～9月に熱中症特別警戒アラートが発令された際は、クーリングシェルターののぼりを店頭に設置し、暑さからの避難を呼びかけています。



涼しい店内で休憩できる場所を提供

障がい者支援への貢献で表彰状

2024年10月22日、「島根県立特別支援学校応援・協力企業 知事表彰式」で、イズミは島根県の丸山知事から表彰状をいただきました。今回の表彰は、島根県で営業するイズミの店舗が、島根県立特別支援学校の生徒のみなさんの職業教育や、卒業生の就業に対して、長年協力してきた点が評価されたものです。

“社会を明るくする運動”で「ゆめタウン出雲」に感謝状

2024年11月14日、第25回島根県更生保護大会にて、「ゆめタウン出雲」は丸山知事から「“社会を明るくする運動” 島根県推進委員会委員長感謝状」をいただきました。更生保護制度(非行少年などの社会復帰を支える)の周知活動に長年貢献してきたことが評価され、今回の受賞につながりました。



丸山知事(左)から感謝状を受け取る中川支配人(当時)

「ゆめタウン博多」で販売ごみ出しに使えるレジ袋

2024年11月29日から「ゆめタウン博多」で、福岡市が作ったレジ袋「ふくレジ」の販売を開始しました。これは、燃えるごみの指定袋としても使えるもので、10Lと15Lの2種類があります。商品持ち帰り用袋として使った後は、家庭のごみ出し袋に再利用できるため、プラスチックごみの削減につながる取り組みです。



ごみ出しに使えるレジ袋「ふくレジ」



丸山知事(左)から表彰状を受け取る人事部の宮次部長



地域貢献で活気あふれる街づくりを

こどものyoumeある未来応援プロジェクト(RCC/KBC/TKUとイズミの共催)

お天気キャスターに挑戦 (RCC 中国放送と共催)

2024年7月22日～26日、RCCの情報番組「イマナマ!」に小学生が出演し、お天気キャスターに挑戦しました。生放送のスタジオで、ドキドキしながらも堂々と天気予報を伝えることができました。



天気予報の原稿づくりに取り組む様子

食の体験ツアー (KBC 九州朝日放送と共催)

2024年11月23日、飯塚市のオドラ農園で、小学生がシイタケの収穫体験をしました。その後「ゆめタウン飯塚」でバック詰めや試食・販売にも挑戦し、1日で農業と小売業を学ぶ機会になりました。



シイタケのパッケージング体験の様子

空のお仕事体験 (TKU テレビ熊本と共催)

2024年12月14日、小学生が阿蘇熊本空港で、航空業界について学びました。パイロット・客室乗務員への質問タイムや、セキュリティエリア見学など、貴重な体験が盛りだくさんの1日となりました。



飛行機到着視察の様子

子どもたちの買物体験を応援

保育園お買物体験 in「ゆめマート新宮」

店舗近くの保育園の園児のみなさんが、カレーの材料を買いにきてくれました。ニンジンやタマネギなど食材を探し、支払いも頑張って挑戦しました。その後保育園に戻り、みんなで仲良くおいしいカレーを作ったそうです。



参加した保育園の園児のみなさん

はじめてのおかいもの in「ゆめマート府中」

年長(5・6歳)～小学1・2年生の子どもたちが、店舗の従業員に見守られながら、買物を体験しました。メモを手に真剣なまなざしで商品を選ぶ、ほほえましい姿が見受けられました。



レジで支払いを体験

フードロス削減ポスターを募集・展示

2024年9月～11月に、フードロス削減ポスターを募集しました。応募作品120点の中から、最優秀賞に選ばれた作品は、イズミグループ全店で1年間掲示されました。

2025年1月～3月に、「ゆめタウン」31店舗で応募作品の巡回展を実施。買物に来られた多くのお客さまにご覧いただきました。



「ゆめタウン下松」での巡回展の様子



最優秀賞作品

サステナブル・ブランド国際会議 中国大会

2024年9月28日に広島大学で「第5回SB Student Ambassador 中国大会」が開催されました。全国大会の出場者を選出するため、中国地方5県から集まった高校生が、SDGsに関して意見を交わし、発表を行いました。地元企業4社のうちの1社として、「地域とともに持続可能な社会を目指す」をテーマに講演を行いました。今後こうした場に積極的に参加し、持続可能な社会の次世代リーダー育成に、貢献していきます。



サステナビリティ推進課の松永課長(右)と、熱心に耳を傾ける生徒たち

「ゆめタウン呉」で小学生が社会見学

2024年10月29日に呉市立明徳小学校の児童10人、11月1日に呉市立天応学園の児童20人が「ゆめタウン呉」を訪れました。桶本支配人が講師を務め、イズミのSDGs活動や食品ロス削減の取り組みについて説明しました。その後、売場で「フードライブコーナー」「リサイクル回収ボックス」などを実際に見てもらい、お客さまのためにさまざまな工夫を実践していることを説明しました。



講師を務めた「ゆめタウン呉」の桶本支配人

行橋市の小学校で出前授業

株式会社エフピコと共同で、2024年10月29日、行橋市立行橋南小学校で出前授業を行いました。イズミは食品ロス削減を中心としたSDGs活動、株式会社エフピコはトレイ回収などのリサイクルについて説明。学校や家庭でできる取り組みを紹介しながら、質問コーナーを交えた楽しい授業となりました。



約120人ものたくさんの児童に参加いただきました

笠高フェス in「ゆめタウン三豊」

2024年8月24日、「ゆめタウン三豊」で香川県立笠田高等学校の生徒のみなさんによる「笠高フェス」が開催されました。書道部のパフォーマンスや吹奏楽部の演奏では、日頃の練習の成果を披露。販売コーナーでは、生徒のみなさんが学習の一環として育てたブドウや豚肉などがずらりと並び、多くのお客さままでにぎわいました。



生徒が育てた農産物を販売「笠高新鮮市」



吹奏楽部の演奏

清掃活動を店舗近隣エリアで実施

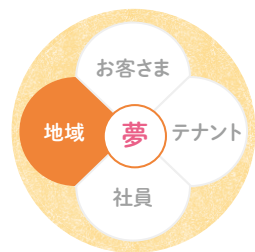
新店オープンの際に、従業員研修の一環として店舗近隣エリアの清掃活動を行っています。「ゆめマート新大村」「ゆめマート山陽」では、清掃活動に加え、「大村湾ワンダーベイプロジェクト」から講師を招き、海洋プラスチック問題を学ぶ勉強会も開催しました。



「ゆめマート新大村」の近隣商店街を清掃



駐車場のゴミを丁寧に拾った「ゆめマート山陽」のみなさん



地域貢献で活気あふれる街づくりを

自社製造ブランド「zehi」売上の一部を寄付

2022年に誕生した「zehi」は、おいしさと安全・安心にこだわった惣菜の自社製造ブランドです。地域への貢献を目指し、2023年度からは売上の一部を、子ども食堂の支援活動に役立てています。2024年6月には、イズミ本社、ゆめマート北九州本社、「ゆめマート合志」の3カ所で寄付金の贈呈式を行いました。こうした支援はグループ全体で続けており、2024年10月には、香川県と大分県の社会福祉協議会より感謝状をいただきました。



イズミ本社での贈呈式の様子



寄付活動に対する感謝状

企業マッチングイベント「TSUNAGU」で講演

2024年11月19日・20日、企業のマッチングイベント「TSUNAGU広島2024」が、広島市で開催されました。本イベントは、地域産業の活性化を目的に、広島県内企業と国内外のスタートアップ企業を結ぶ場として実施されたものです。ステージでは各企業や団体による講演が行われ、イズミの田原専務が登壇。「スーパーマーケットが目指す次世代の街づくり」をテーマに講演し、地域とともに推進する活動を紹介しました。



イズミの活動について田原専務が紹介

スマホ教室を店舗駐車場や店内の市立図書館で開催

熊本県荒尾市では、スマートフォンを使えないことによる情報格差をなくすため、住民のニーズに合わせた多様なスマホ教室を開催しています。特に人気なのが移動型の教室です。会場は「ゆめタウンシティモール」の駐車場で、モニターやタブレットを備えた車両「スマホなんでもサポート号」で行われています。少人数制のレッスンは「わかりやすい」と好評です。

さらに、「ゆめタウンシティモール」2階の荒尾市立図書館でも、「スマホのなんでも相談会」や「防災スマホ教室」などを実施。イズミは教室用にスペースを提供するほか、テナントの携帯ショップとも連携して、行政に協力しています。



移動型スマホ教室の車両内の様子

福岡県との連携で子育てイベントに協力

福岡県が実施する「ふくおか・みんなで家族月間」の関連イベントに、イズミは2店舗で協力しました。「ゆめタウン久留米」では2024年10月26日に「わくわく広場」を開催。魚釣りゲームや工作体験などを楽しめるブースを設け、多くの親子連れでにぎわいました。「ゆめタウン飯塚」では11月4日にハイハイ・カタカタレースを企画し、来場者とともに赤ちゃんの健やかな成長を応援しました。



「ゆめタウン久留米」店内でのわくわく広場の様子

「はつかいち環境フェスタ2024」に参加

2024年10月26日、「はつかいち環境フェスタ2024」が廿日市市などの主催により開催され、29の企業や団体が参加しました。イズミもブースを出展し、食品ロス削減の取り組みを紹介したほか、リサイクルや分別を遊びながら学べるゲームを実施。当日はブースへの来場者が約240人にのぼり、環境保全への意識を共有する貴重な機会となりました。



工作コーナーなどを備えたイズミのブース



ゴミの分別が学べる「空き缶釣りゲーム」

広島市食品ロス月間イベント「スマイル!ひろしま広場」に参加

2024年10月27日、食品ロス削減月間に合わせて、広島市が「スマイル!ひろしま広場」を開催しました。会場のシャレオ中央広場には、12の企業や団体が出展。イズミのブースでは、「フードドライブ」や「もぐもぐチャレンジ」の取り組みを紹介したほか、食品ロス対策を楽しく学べる工作コーナーも設けました。



食品ロス削減推進キャラクター「もぐにい」との写真撮影も実施

農業の楽しさ実感「田植え体験イベント」

2024年5月11日、JA全農ひろしまやJAひろしまの協力により、「豊栄産こしひかり産地交流会 田植え体験イベント」を東広島市豊栄町で開催しました。農業を身近に感じ、農作物への関心を深めてもらうことを目的とした、毎年恒例の取り組みです。抽選で選ばれた31人の参加者は、田んぼで苗の手植えを体験し、農業の楽しさや楽しさに触れました。



快晴の空の下、産地交流を楽しんだみなさん

新感覚街めぐりイベント「シティロゲ」

スポーツと観光を融合した体験型イベント「シティロゲ」が、2024年6月23日に広島県、9月28日に福岡県、10月19日に熊本県で、イズミの特別協賛により開催されました。参加者は地図を手に街を巡り、クイズに挑戦しながら得点を集めました。日常では見過ごしがちな地域の魅力にふれ、関心を深めるきっかけとなっています。



ゴールを喜ぶ参加者のみなさん



地図を見ながら向かう場所を相談



お取引先様と 連携してさらなる繁栄を

企業の垣根を超えて、お取引先様やテナント様と協力。
知恵を出し合って共存共栄を図っていきます。



ロールプレイング全社大会で 接客技術を高める

ゆめタウン専門店ロールプレイング大会「ゆめ1グランプリ」は、接客技術の向上を目的として毎年開催されるコンテストです。2024年10月10日にイズミ本社にて第8回全社大会が行われ、地区予選を勝ち抜いた11人が参加しました。出場者は緊張しながら、日頃の成果を堂々と披露。接客技術を競うとともに、よりよいサービスの実践を目指して互いに学び合いました。

第50回イズミ会をサッカースタジアムで開催

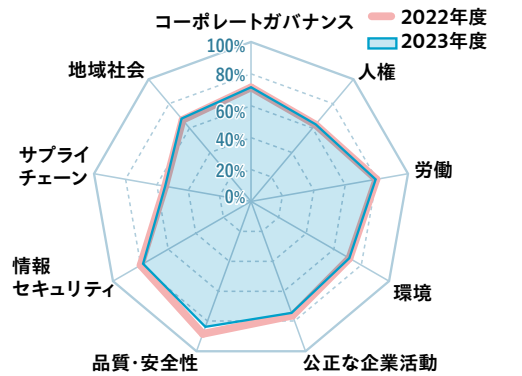
1975年に発足したイズミ会はお取引先様とイズミの絆を深め、共存共栄を目指す会です。2024年8月8日、第50回目の総会を記念して、エディオンピースウイング広島でセレモニーを行いました。スタジアムの大型ビジョンで、優良会員企業さまを紹介。昼食会では互いにコミュニケーションを図り、よりよい商品・サービスの提供に向けて思いを一つにしました。



会場は、全国的に注目される
広島の新サッカースタジアム

CSR調達セルフ・アセスメント質問表得点率

(お取引先様各社の取り組み状況について調査)



アンケート形式でお取引先様のCSR関連活動について調査し、互いの方針の共有を図りました。

九州イズミ専門店連合会が店長研修会を開催

2025年2月26日、九州イズミ専門店連合会が店長研修会を開催し、九州エリアのテナントで働く店長など108人が参加しました。好事例発表では、5人が売上拡大の秘訣や接客強化の取り組みを紹介。外部講師による「難クレーム・カスタマーハラスメント研修」も行われ、討議を通してお客さまの心情に寄り添うコツを学びました。



「よりよい接客」を学ぶ研修の様子

公正な取引に向け 本社に投書箱を設置

お取引先様にご意見をいただき、より公正なお取引を推進するため、イズミ本社に投書箱を設置しています。率直なご指摘は、商談だけでなく従業員のマナーや店舗運営などの改善にも役立てています。



イズミ本社2階の投書箱

視覚障がい者支援の チャリティ募金

「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」は、目の不自由な方が安心して街を歩けるよう、音の出る信号機などの資金を募る恒例のチャリティイベントです。イズミは広島、福岡、香川の放送局と連携し、2024年12月24日・25日に各地の「ゆめタウン」でラジオの公開録音を開催。募金への協力をお客さまに呼びかけました。



「ゆめタウン広島」での公開録音の様子

「博多うまか街道」に 注目の専門店が集結

2024年10月24日、「ゆめタウン博多」1階に、地元の銘菓を販売する新コーナー「博多うまか街道」がオープンしました。地場の人気専門店11店が集結し、スイーツやお惣菜、お土産など話題の品々が一か所で購入できると好評です。地元のみならずもちろん観光客のみならず多数来店され、連日にぎわっています。



博多名物がずらりと並ぶ「博多うまか街道」



社員が自分らしく活躍できる職場環境を

さまざまなバックグラウンドを持つ従業員がイキイキと活躍できる環境を整備していきます。



多くの学びの場で個々の成長を支える

従業員一人ひとりが自らの能力を伸ばし、成長していくために、継続的な学びと挑戦の機会を提供しています。全従業員が知識と実務スキルを磨けるよう、新入社員から管理職までの階層別研修を充実させています。eラーニングや通信教育による自己啓発も応援。各自が能力アップと同時にモチベーションを高め、いざいぎと働ける組織を目指していきます。

人的資本経営を強化 より自分らしく働ける組織へ

社会環境の急激な変化に対応していくため、「人的資本経営」を強化しています。6つの主要課題(右図)を抽出しており、それぞれについて数値目標を設定し、一つひとつ解決を図っています。

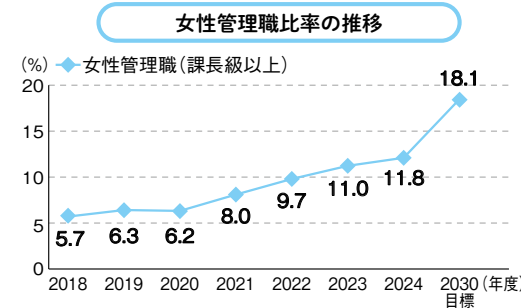
例えば主要課題の一つであるダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンでは、性別や年齢、人種、キャリアなどが異なる「多様な人材」が、自分らしく活躍できる環境づくりに取り組みます。さまざまな考え方や経験を生かしてイノベーションを創造し、持続的に成長できる強いイズミグループを実現していきます。

人的資本経営への取り組み

人材育成	- 次世代リーダーの育成および幅広い知見を有する社員の育成を目的として、選抜研修を実施する。 - 実務スキル習得および向上に向けて、階層別研修を実施する。 - 自ら学ぶ自立した人材を育成するために、自己啓発を支援する。
従業員エンゲージメントの向上	- 働き方改革をより一層推進する。 - エンゲージメントサーベイを活用し、その結果から見える課題を解決する。 - 双方向のコミュニケーションを重視し、対話を促進する。
採用と定義	- 年々困難になっている人材の確保に向けて、採用方法を多様化する。 - 入社4年目までの若年層を中心に、定着化を図る。
ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン	- 女性が活躍できる環境を整備し、社内全体の意識を醸成する。 - 障がい者や高齢者など多様な人材が活躍できる場を提供する。 - 少子高齢化におけるビジネスケアラー増加に対応した環境づくり。
健康経営の推進	従業員の健康は地域の健康につながるの考えのもと、従業員の健康維持や増進および未病への取り組みを実施する。
コンプライアンス	- 法令遵守意識の向上。 - 安心して相談できる窓口の設置。

女性管理職が着実に増加

会社や組織のあらゆる意思決定の場に女性が当たり前に参加している状態を目指し、2014年から女性活躍推進に取り組んでいます。年々、女性店長・課長・部長が増え、2025年にはプロパー社員から執行役員が2人誕生しました。今後は、女性管理職一人ひとりがさらに力を発揮できるよう、フォローアップ研修を充実させていきます。



イズミ大学・卒業生カレッジ開講

次世代の経営幹部を育成するために、イズミ大学を開講しています。2年間で、役員に求められるスキルを習得するとともに、経営判断に必要な広い視野を身につけるプログラムです。またイズミ大学修了者を対象に、卒業生カレッジを新設し、さらなるレベルアップを図っています。



第3期開校式であいざつする
三家本副社長(当時)

多様性を学ぶ LGBTQ+ 研修を開催

2024年2月7日、LGBTQ+ (性的少数者) について理解を深める研修を開催しました。受講者は店舗・本社の管理職で、お客さまが安心してお買物できる場や、職場で当事者が自分らしく安心して働ける職場づくりを学びました。



講義を行う人事部の宮次部長

「ゆめ感動物語」で実践事例発表

企業理念に沿った取り組みとして、2008年にパートナー社員を対象に第1回「ゆめ感動物語」がスタート。これまでに52回開催されました。50回目からはグループ会社も参加し、2,720人が全社大会へ進出しています。また、2015年からは正社員大会も開催され、2024年11月7日、正社員を対象とした事例発表会「第5回ゆめ感動物語」が開催されました。全店を代表して7人が出場し、「地域一番店の実現」「好きを売上につなげる」などの活動を報告。よい取り組みは全社で共有され、店舗運営に生かされています。



自身の取り組みを熱く発表



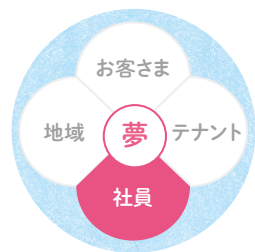
7人の正社員がイズミ本社で発表

アメリカで最新の 食品スーパーを視察

2024年11月15日~21日、アメリカ現地視察研修を実施。先進的な食品スーパーでの見学に加え、店長に店舗運営について話を聞く時間もあり、社内で選抜された参加者は熱心に情報収集しました。



価格戦略や品ぞろえの方針などを店長にヒアリング



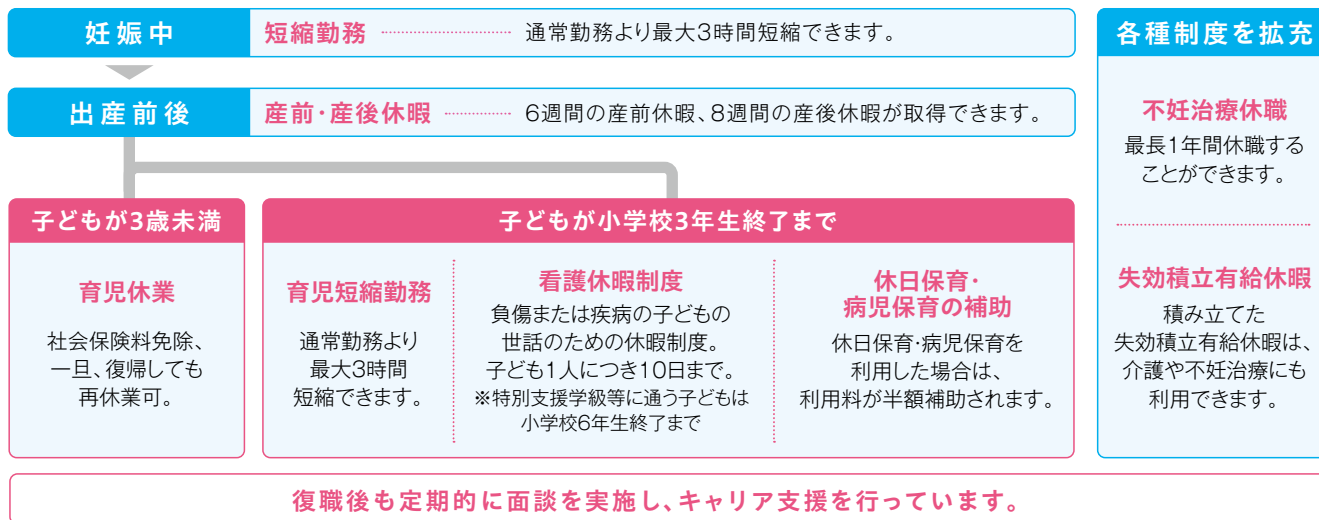
社員が自分らしく活躍できる職場環境を

家庭と仕事の両立をさらに支援

2025年春の「育児・介護休業法」改正に伴い、育児・介護と仕事の両立支援制度をさらに拡充。感染症による学級閉鎖や、入園式・卒園式が休業理由に新たに加われました。こうした変更点を含め最新の制度を、従業員が必要な時にいつでもポータルサイトで確認できるようにしています。

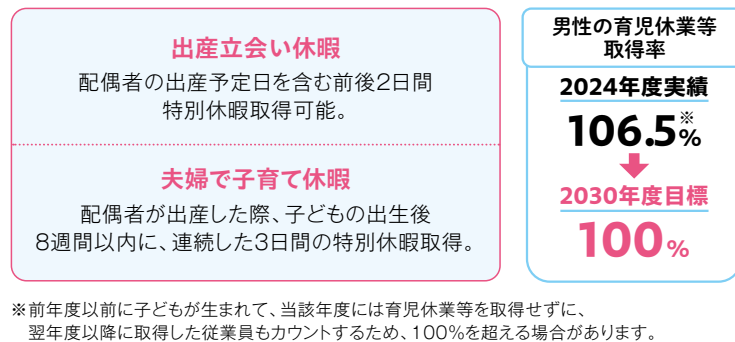


育児休業制度の充実を図っています



男性の育児休業等取得率100%を達成

男性が積極的に育児に参加する社風を醸成するため、育児を目的とした特別休暇制度を導入し、取得100%に取り組んでいます。2024年度には、店舗で課題となっていた育休による不在ポストに、本社からフォロー人員の派遣を開始。育児休業が取得しやすい社風により、特別休暇を含む男性の育児休業等取得率は100%を超えています。なお、育児目的の特別休暇を含まない場合の取得率は52.2%です。



教育にかかる経済的負担を軽減奨学手当を支給

子どもが大学等へ通っている社員に対し、経済的負担の軽減を目的に奨学手当を支給しています。当社は幼少期の子育て支援から高等教育の段階に至るまで長期にわたり従業員とご家族を支援しています。

定年を延長 65歳まで正社員に

2025年度以降に満60歳を迎える正社員を対象に、定年制度を改定しました。同年度より、定年年齢を現行の60歳から毎年1歳ずつ引き上げ、最終的に65歳まで正社員として勤務できる制度とします。この改定は、社員一人ひとりの「働き続けたい」という意志を尊重し、意欲的に活躍できる職場環境の整備を目的としています。あわせて、熟練の技術や知見を次世代に継承する機会を増やすことで、若手社員の成長と組織全体のレベルアップを図ります。

勤務エリア区分制度を変更

一人ひとりの事情や希望に応じて勤務地を選ぶよう、2025年春に人事制度を改定しました。社員区分を従来の3つから、勤務エリアに対応した4つに刷新。さらに異動手当の増額や、高速道路・新幹線での遠距離通勤制度などを導入し、より働きやすい環境をつくり、経済的な負担なども減らしていきます。

従業員満足度アンケート調査

2022年度より、従業員満足度の向上を目的としたアンケート調査「エンゲージメントサーベイ」を実施しています。企業理念への共感度や働きがいなどについて正社員に調査し、課題を明らかにして対策を講じています。2024年度からは定期的にパートナー社員も調査対象に加え、今後もイズミグループ全体を可視化できるよう取り組んでいきます。



調査内容を社内報で紹介

健康経営優良法人2025に認定

イズミ、ゆめmart熊本、ゆめmart北九州、イズミテクノは、「健康経営優良法人2025」に認定されました。これは、経済産業省と日本健康会議が共同で行う認定制度で、従業員の健康の保持・増進に取り組む企業に与えられます。今後もイズミグループは従業員の心と体の健康を第一に考え、経営方針の柱の一つとして健康経営を推進していきます。

アプリ活用で健康づくりを支援

2022年からヘルスケアアプリHELPOを導入しています。従業員が心身ともに健やかに働き続けられる職場づくりを目指し、アプリを活用したウォーキングイベントの開催や健康に関する情報提供を通じて、健康への意識向上と疾病予防に取り組んでいます。また、HELPOの最大の特徴はチャットによる健康相談機能です。従業員本人だけでなく、子どもの病気や家族の介護についても相談でき、月平均200件の利用があります。またオンライン診療と薬の処方にも対応し、スマホ1つで気軽に受診できることから、放置されがちな軽微な健康課題から、スピードを持って解決したい課題の解決まで幅広く役立っています。今後も従業員の健康づくりに関するプラットフォームとして、HELPOを活用していきます。

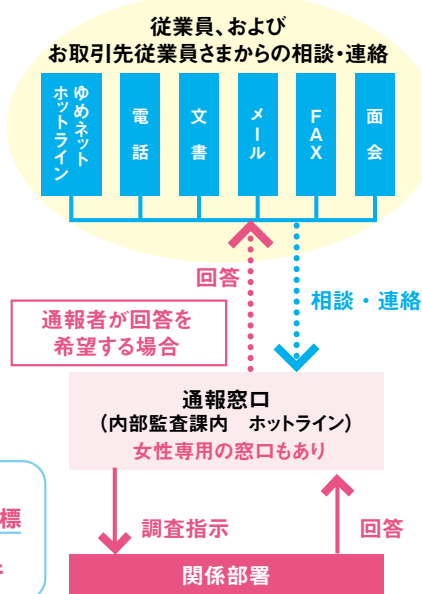
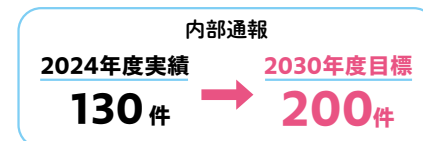


スマホで健康相談ができるHELPO

相談窓口「イズミホットライン」

風通しのよい組織を目指して、従業員やお取引先様が利用できる内部通報窓口を開設しています。デリケートな内容に配慮して女性専用窓口も設置し、電話やメール、対面など、さまざまな方法で相談を受け付けています。

2024年度の相談件数は130件でした。各案件への適切な対応を推進し、今後もより実効性のある窓口を目指していきます。



カスタマーハラスメントに対する方針を策定

「カスタマーハラスメント(顧客による迷惑行為)への対応方針」を2024年12月に策定しました。お客さまのご要望に誠実にお応えする一方、従業員の人権を害するケースには組織的に対応してまいります。今後もすべての従業員が安心して働ける職場環境づくりを進めていきます。



社内報で従業員に方針を共有

2025 youmeecoaction

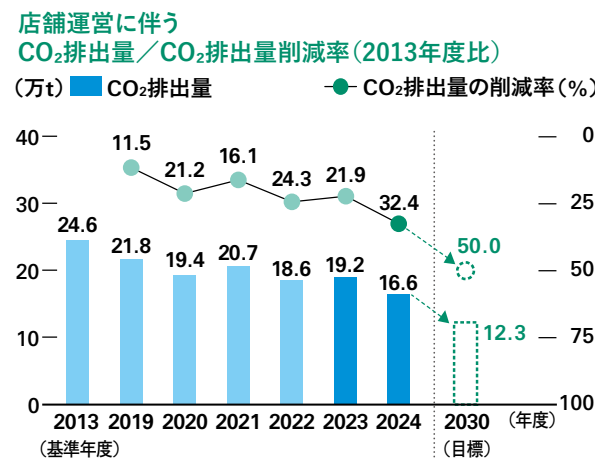
日々の業務の中で、全従業員が商品やサービスを通じた環境負荷低減活動を推進中です。
豊かな環境を次世代につなぐため、地道なエコ・アクションをさらに加速していきます。

脱炭素化を目指して 省エネ・創エネ活動

CO₂排出量を 着実に削減



店舗運営に伴うCO₂排出量を削減するため、空調や冷蔵設備など各方面から省エネに取り組んでいます。再生可能エネルギーの利用拡大にも力を入れ、太陽光発電パネル設置を推進。また従業員各自が「不要な照明を消す」「冷房の設定温度を適切に保つ」といった地道な省エネを実践した結果、CO₂排出量は年々着実に減少しています。



太陽光発電設備を 積極的に設置



2022年以降、すべての新店に太陽光発電パネルを導入しています。2024年9月開業の「ゆめマート五日市」では、太陽光発電と電力販売契約により、100%再生可能エネルギーを実現しました。



「ゆめマート五日市」の太陽光発電パネル

29店舗
に設置

CO₂排出量 実質ゼロの都市ガス



「ゆめマート西条」では「カーボンニュートラルな都市ガス」を導入しています。このガスは、採掘から燃焼までのすべての工程で発生するCO₂排出量が実質ゼロで、環境負荷の軽減に役立っています。

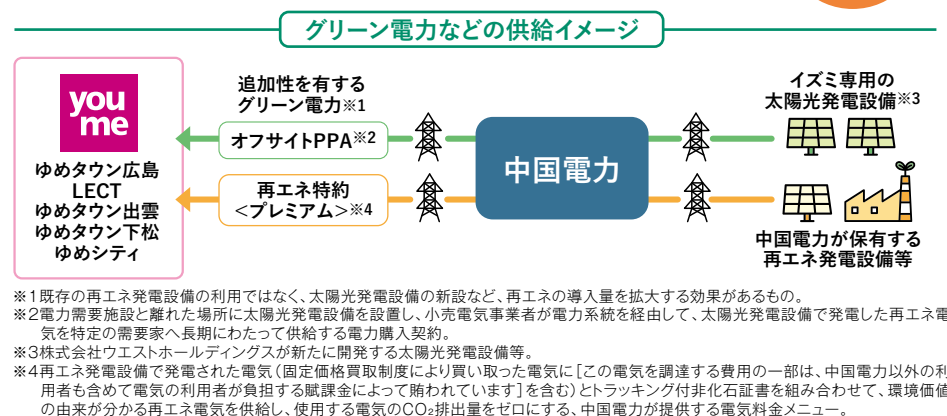


「ゆめマート西条」

中国電力からグリーン電力供給



2024年7月1日、中国電力株式会社と「グリーン電力等の供給に関する契約」を締結しました。対象となる「ゆめタウン広島」「LECT」「ゆめタウン出雲」「ゆめタウン下松」「ゆめシティ」で、使用電力を100%再生可能エネルギーに切り替えを実施。同時に、イズミ専用の太陽光発電設備の運用も開始しました。



5店舗
に導入

冷蔵・冷凍ケースで 省エネを実践



冷蔵・冷凍ショーケースの庫内温度を適切に保ちながら、消費電力を確実に削減するため、全店舗に「インバーターシステム」を導入しました。このシステムにより、24時間365日、途切れることなく集中管理を行い、省エネルギーを実践しています。



エネルギー効率が高い冷蔵・冷凍ショーケース

充電スポットを整備 EVの普及を後押し



地球温暖化対策の一環として、電気自動車(EV)への期待が高まっています。その普及を促進するため、駐車場にEV充電スポットの整備を推進。現在「ゆめタウン光の森」「ゆめタウン高松」「ゆめタウン廿日市」「ゆめタウン広島」「LECT」などに設置しています。



「ゆめタウン光の森」のEV充電スポット

31店舗
に設置

閉店中の冷気漏れをカバーで防止



店舗の冷蔵ショーケースに、冷気漏れを防ぐカバーを設置し、夜間に冷気が逃げないようにしています。さらに節電効果を高めるため、冷気の吹き出し口は毎日清掃を実施。従業員一人ひとりが省エネを意識し、日常の業務の中で積極的に取り組んでいます。



閉店時に冷気漏れ防止カバーを下ろす

衣料品売場などのレジ袋を紙製に変更



2024年10月1日、約60店舗の衣料品・暮らしの品売場で、レジ袋をプラスチック製から紙製へ変更しました(一部店舗を除く)。この取り組みにより、2024年度は約96万枚のプラスチック製レジ袋を削減できました。また、食品売場では2021年から、植物由来のバイオマス原料を配合したレジ袋を導入しています。



紙製のレジ袋

空調設備の切り替えで CO₂排出量を削減



店舗のリニューアルなどの際に、従来の重油式空調設備から電気式空調設備への切り替えを進めています。電気式空調に切り替えることで、CO₂排出量の半減が可能です。今後も、店内の快適さを維持しながら、地球温暖化防止を推進していきます。



重油式の空調設備



電気式の空調設備

中四国物流研究会で配送効率を高める

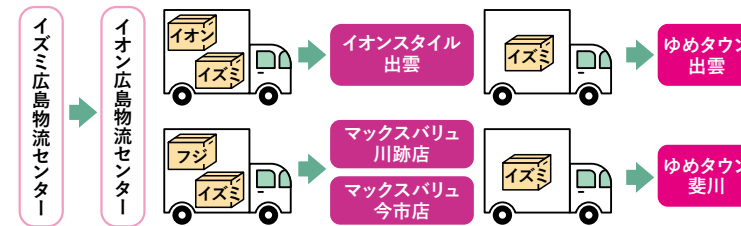


2024年4月、イズミは中四国の小売企業や物流企業と共同で「中四国物流研究会」を設立しました。遠隔地店舗への配送協業などの実証実験に参加し、配送の効率化を図るとともに、CO₂排出量の削減にもつなげています。



「中四国物流研究会」発足発表会

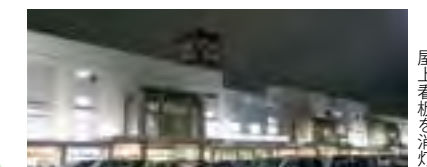
事例 遠隔地店舗への配送協業(イズミ×イオンリテール・フジ)



20時以降 屋上看板を消灯



全店舗で「ライトオフプロジェクト」として、屋上看板の照明を20時に消灯しています。屋内照明も、閉店後と閉店前の1時間は20%消灯。さらに、夏季には空調の設定温度を1℃上げるなどの活動を行っています。



「ゆめタウン広島」の屋上看板を消灯

資源の有効活用へリサイクル・リユース推進

衣料品や傘を回収 資源の循環を推進



不要になった衣料品の回収活動「服のMUDA ZEROプロジェクト」を通じて、資源循環の推進に取り組んでいます。この活動では、衣類を一度繊維に戻し、新たな糸や生地、衣類として再生・活用することで、廃棄物ゼロを目指しています。6月と8月には「傘の買い替えキャンペーン」を実施し、傘を生地や骨組みに分別してリサイクル。いず



「服のMUDA ZEROプロジェクト」のシステム



店頭での回収活動



©Mercis bv

回収した衣類からできた糸を
使用した商品

れも、回収に参加されたお客さまには値引き販売をするなど、環境と家計にやさしい取り組みです。

こども服の回収と リユースマーケット



2024年から「ゆめキッズ」売場で、不要になったこども服の回収活動を始めました。21店舗に持ち込まれた服は、1点ずつ状態を確認し、サイズ別に仕分け。その後、「ゆめタウン廿日市」と「ゆめタウン久留米」の2店舗で「こども服リユースマーケット」を開催し、手頃な価格で販売しました。愛着ある服を次の人へ引き継ぐ仕組みとして、多くの方にご利用いただきました。



店頭にお知らせを設置



大盛況の「こども服リユースマーケット」

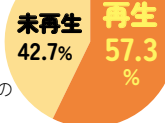
食品廃棄物を 有機肥料に



店舗の食品部門では、野菜くずや魚のあらなどの食品廃棄物が排出されます。担当者は廃棄物の分別管理を徹底。再生利用することで、焼却処分によるCO₂排出量を削減しています。東広島市の店舗で出た調理くずは、有機肥料に生まれ変わり農業に活用されています。

2024年度の
リサイクル率

※食品リサイクル法の
算出方法に基づく



食品廃棄物の
回収ボックス

使用済み食用油を 福岡県内4店舗で回収



2025年4月から、福岡市・北九州市と連携して、家庭から出る使用済み食用油の回収を行っています。「ゆめタウン博多」など4店舗に回収ボックスを設置し、集まった廃食油を専門業者でバイオディーゼル燃料に再生。普段は廃棄される食用油を軽油の代替燃料として活用し、CO₂排出量を削減に貢献しています。



店頭の廃食油回収ボックス

不要になった制服を エコバッグに再生



2021年から、従業員の制服を再生利用する取り組みを実施しています。2024年にはトート型のエコバッグに再生。肩にかけて使えるよう、持ち手を長めにした点が特長です。毎年恒例の抽選企画でお客さまにプレゼントし、ご好評をいただきました。



持ち運びに便利な
トート型エコバッグ

店頭でのリサイクル活動を促進



お客さまと一緒に資源循環を進めるため、20年以上にわたって店頭で回収ボックスを設置しています。お客さまの認知度は徐々に高まり、回収量は年々増加中です。2022年からは使用済みペットボトルを回収し、新しいペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」の水平リサイクル専用回収機も設置。ゆめアプリ会員さまには、1本につき0.2円の値引積立額を差し上げています。



ペットボトル・アルミ缶回収機



リサイクルステーション

駐車場で古紙回収 「エコ・ステ」



古紙回収ステーション「エコ・ステ」を78店舗の駐車場に設置しています(2025年6月現在)。お客さまが古新聞や古雑誌などの古紙を持参すると、重量に応じてポイントを付与。そのポイントをお買物に使える仕組みが人気です。回収対象は、ポスターやカレンダー、紙箱、チラシ、カタログ、トイレトペーパーの芯など幅広く、さまざまな紙類に対応しています。薄い紙でも、貴重な資源としてリサイクル可能です。

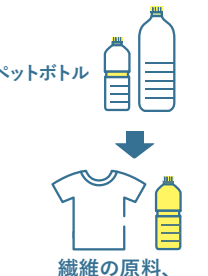
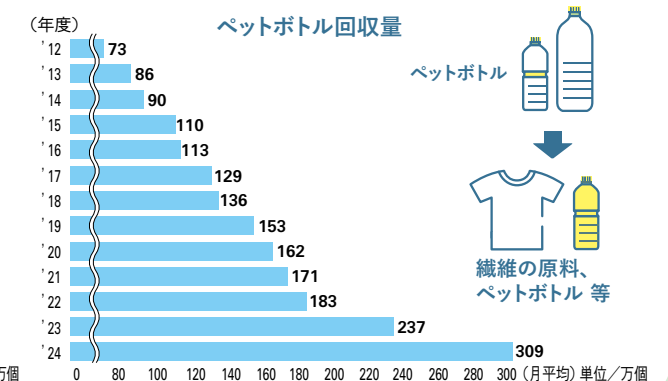
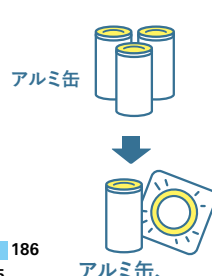
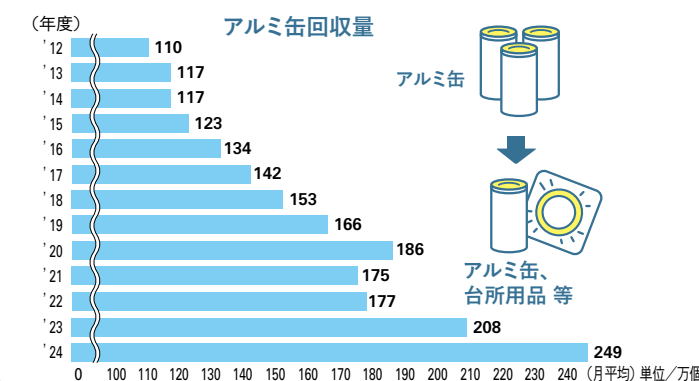
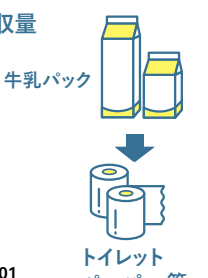
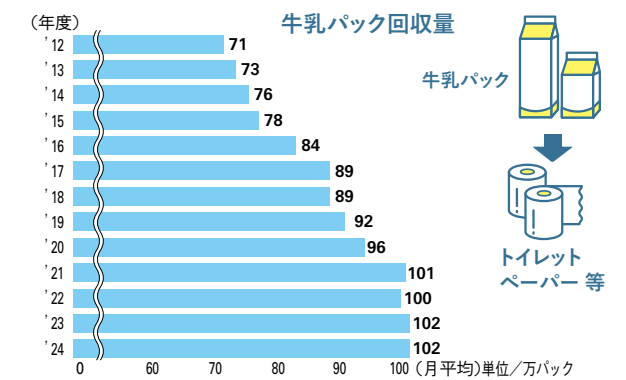
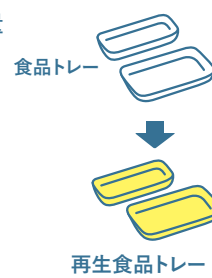
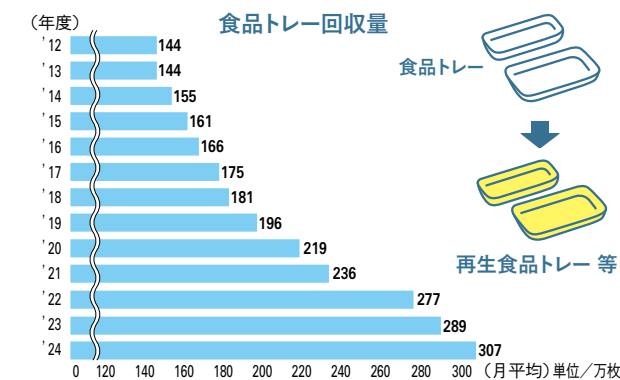
※「エコ・ステ」とは、
「エコステーション」の略です

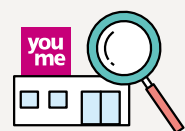


「ゆめタウン八代」のエコ・ステ

78店舗
に設置

店頭での容器回収量





グループ会社 サステナビリティレポート

イズミグループ各社は、互いに連携しノウハウを共有しながら
社会貢献や環境保全に取り組み、未来に向かって意欲的に進化し続けています。



働きやすい環境整備

誰もが柔軟に働き方を選択でき、思う存分能力を発揮していけるよう
グループ各社で労働環境の整備に取り組んでいます。

イズミテクノ

「くるみん」認定を取得



子育てサポートの拡充を図り、育休取得率は女性100%、男性50%まで向上しました。こうした実績が評価され、2024年に子育てサポート企業として「くるみん」の認定を受けました。

デイリーマート

コンプライアンス研修



月1回の店長会と、2カ月に1回の主任勉強会でコンプライアンス研修を実施。法令違反や不正取引の事例のグループディスカッションを通じて、理解を深めています。

ゆめマート北九州

ワークライフバランス市長賞



働きやすい環境づくりと、女性管理職登用への地道な活動が評価され、2024年に北九州市の「女性活躍・ワークライフバランス表彰」最高位の市長賞を受賞しました。

ゆめマート北九州

北九州イクボス同盟に加盟



北九州市が運営する「北九州イクボス同盟」に加盟しました。部下の仕事と家庭の両立に配慮し、自らも私生活を大切にする上司「イクボス」の育成に取り組んでいます。



資源循環を推進

各社の事業内容に応じて、食品ロス削減や省エネ、省資源活動などに取り組んでいます。

ユアーズ

食育へゲームアプリ活用



2024年11月、食育ゲームアプリ「もぐもぐタウン」を活用したキャンペーンを実施しました。楽しみながら食事の大切さを学べる機会を提供しています。

ゆめマート熊本 / ゆめマート北九州

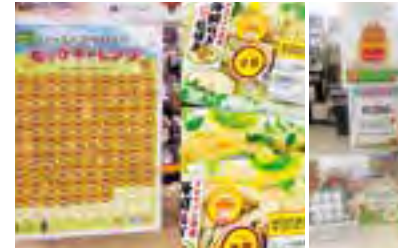
フードドライブを実施



お客さまに未利用の食品を寄付していただき、必要とする方々へ届ける「フードドライブ」に取り組んでいます。店頭で回収ボックスを設置し、協力を呼びかけています。

ゆめマート熊本 / ゆめマート北九州

もぐもぐチャレンジを展開



「もぐもぐチャレンジ」は、賞味・消費期限が近い商品に付いたシールを集めて参加する活動です。シール1枚につき1円が、こども食堂への寄付に活用されます。

イズミグループ グループ会社 /



株式会社ゆめマート熊本



株式会社デイリーマート



株式会社イズミテクノ



株式会社ゆめデリカ



株式会社ゆめマート北九州



株式会社サンライフ



イズミ・フード・サービス株式会社



株式会社ウオッチ・ビジネス・カンパニー



株式会社ユアーズ



株式会社ゆめカード



株式会社ヤマニシ



地域への貢献

より暮らしやすく活気あふれる地域づくりに、
多方面からアプローチしています。

イズミテクノ

ゆめフェスタを福山市で開催



2025年2月9日、広島県立ふくやま産業交流館にて、毎年恒例の「ゆめフェスタ」を開催しました。当日は9,972人の来場があり、防災クイズなどの企画も好評を博しました。

ゆめデリカ

スポーツでダイバーシティを推進



誰もが楽しめるスポーツ「フロアホッケー」に挑戦し、障がいの有無や国籍の違いを超えてチームを結成。互いに支え合いながらプレーしています。

デイリーマート

熱中症対策を店頭で実施



徳島県美馬市から「熱中症対策協力事業者」の認定を受けました。店内に休憩用の椅子を設置し、来店者が涼める環境を整えています。イオン飲料の提供も実施しています。

サンライフ

地域密着の商品を取り扱い



生鮮食品は地場産の商品を中心に取りそろえています。「チキン南蛮」「にぎりメサバ寿司」など、地域で親しまれている惣菜も各店舗で販売中です。

イズミ・フード・サービス

たこ焼き専用のバガス容器



プラスチック使用量の削減に向け、100%植物由来のたこ焼き専用容器を導入しました。素材にはサトウキビの搾りかす「バガス」を活用しており、国内初の取り組みです。

ウオッチ・ビジネス・カンパニー

レジ袋の素材を紙に変更



紙袋には、再生段ボール紙（FSC認証ミックス）を使用しています。小さな包装もすべて紙製とし、化学製品を一切使わない紙包装100%を実現しました。

ヤマニシ

リサイクル素材を活用



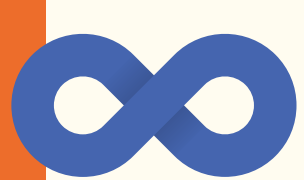
回収ペットボトル由来の再生ポリエステルを使ったインナーの商品展開を拡大するとともに、自然分解する繊維を活用した商品の開発を進めています。

ゆめカード

WEB化で紙使用量を削減



環境配慮とサービス向上の観点から、クレジットカードご利用代金明細書のWEB化を推奨しています。郵送からの切り替え率は、2025年度末で90%に達する見込みです。



経営理念の実現に向けた各種方針

イズミグループ経営理念

社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける。

1 サステナビリティ基本方針

- 未来を見据えた長期ビジョンを策定し、事業を通じて社会課題の解決に取り組みます。
- すべてのステークホルダーと良好な信頼関係を築き、対話を通じて、共に社会に対して責任を果たします。
- 地域とともに発展するため、地域に根ざした活動に取り組み、よりよい生活環境を維持・向上させる活動を通して、長期的な価値を提供します。

【マテリアリティ(重点課題)】

マテリアリティ		取り組み内容
地域 お客さま	地域、お客さまとともに豊かな暮らしをつくる	■お客さまにとって便利なお買物方法の提供(生鮮デリバリー拡大) ■高齢者や単身者などさまざまなお客さまに配慮した商品、サービスの提供 ■包括協定や災害時の物資供給に関する協定を締結 ■地域のお客さまが集う場所の提供
環境	脱炭素社会の実現と資源の有効活用をする	■CO ₂ 排出量削減 ■プラスチック製容器包装削減、資源の有効活用 ■食品廃棄物、店舗から排出される廃棄物の削減 ■食品リサイクルの実施
安全・安心	安全・安心の提供と商品・サービスを通じた価値をつくる	■衛生管理の徹底 ■健康に配慮した商品、アレルギー対応商品の取り扱い拡大 ■水産物、農産物の持続可能な調達
ダイバーシティ	多様な人材が活躍できる環境を整備する	■女性の管理職比率、障がい者雇用率のアップ ■ジェンダー平等、若者・高齢者等の活躍支援 ■ライフステージにあった労働環境の整備

【長期ビジョン】

目指す姿	具体的な取り組み	2030年度の目標	2050年度を目指す姿
脱炭素社会	CO ₂ 排出量削減	■店舗運営に伴うCO ₂ 排出量50%削減(2013年度比) ■新店の店舗運営で使用する電力は再生可能エネルギー100%とする	■店舗運営に伴う排出量実質ゼロ
		■再生可能エネルギー100%での店舗運営を目指し、既存店の太陽光パネル設置、再生可能エネルギー導入を進める ■自社の排出量(スコープ1※1、スコープ2※2)のみならず、スコープ3※3を含めたサプライチェーン全体で削減をする	
資源循環社会	プラスチック対策	■プラスチック製レジ袋の使用量を80%削減(2018年度比) ■使用するレジ袋の素材は、バイオマス等へ変更	■プラスチック製レジ袋の使用量ゼロ
	食品ロス・食品リサイクル対策	■食品ロスを50%削減(2018年度比) ■食品廃棄物のリサイクル率70%	■食品ロスを80%削減(2018年度比) ■食品廃棄物のリサイクル率100%
自然共生社会	生物多様性の保全	■サステナブルな商品の取り扱いを拡大し、エシカル消費を推進する	

※1:直接排出量 ※2:間接排出量 ※3:その他の間接排出量

2 環境方針

イズミは、商品やサービスおよび店舗づくりを通じて環境保全への取り組みと、地域周辺の自然・環境との調和に努めます。また、環境保全活動を通じて、お客さまから信頼される企業を目指します。

- 環境に配慮した安全安心な商品・サービスの提供に取り組みます。
- 持続可能な社会を目指した環境目標を設定し、事業活動を通じた省資源・省エネルギー活動、再生可能エネルギーの使用拡大、廃棄物排出の抑制、リサイクルの実施を行います。
- 再生素材を推進し、環境への負荷が少ないものの購入および使用を行い、資源の有効活用に努めます。
- 社員一人ひとりが環境に配慮した取り組みの実践および継続的な改善に努め、環境に関連した法規制を遵守します。
- この環境方針を社内外に広く開示し、お客さまをはじめステークホルダーのみなさまとの活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。

3 気候変動対応方針

近年、地球温暖化が進み、多発する豪雨、台風の大型化などの異常気象を最小限にとどめるため、イズミは気候変動問題に対して取り組みを行います。地球温暖化はイズミが事業を行う地域でも大いに影響があり、もはや他人事ではなく、かけがえのない唯一無二の地球において持続的に生活を続けることができるよう、私たちは、事業を通じて環境問題解決に取り組み、よりよい未来を次世代につなげます。

- 脱炭素社会への貢献
- 循環型社会への対応
- 環境に対する意識の向上

4 調達方針

役員・社員やお取引先様を含むすべてのビジネスパートナーと共に商品の製造過程における社会的責任を果たすため、「調達方針」を定めます。加えて、本方針が定める遵守すべき事項について、イズミグループの商品に関わるお取引先様と協力して取り組んでまいります。

- 安全・安心な商品の供給
- 法令等の遵守
- 人権の尊重
- 労働環境の整備
- 公正な取引
- 情報の保護
- 環境の保護
- 地域コミュニティへの貢献
- 実践のための仕組みの構築・運用

当社の考える人的資本経営

当社では「社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける」という理念のもと、目指す将来像を「街の核」という言葉で表現しています。街に暮らす人々が集い憩う場所の創設、そして地元の行政や産業と連携しながら街の魅力アップに取り組むことで、地域社会の活性化を牽引する中心的存在になることを目指しています。事業活動を通じた地域と企業の価値向上に向けて各資本の強化を行い、価値創造モデルのサイクルを繰り返すことで将来像実現を目指します。

5 人材育成方針

イズミグループは地域社会の一員として地域活性化やお客さまの生活の質向上に携わることに誇りや喜びを感じ、地域貢献できる社員の育成を目指しています。また、リアル店舗は人の価値がすべてという考えのもと、お客さまのニーズや社会環境の激しい変化に対応するため、創業から継承しているイズミDNA「革新」「挑戦」「スピード」を大切にしており、常に好奇心を持ち自らが一段上の仕事にチャレンジする自立した人材の育成を目指します。

6 環境整備方針

働く目的や求める働き方、キャリアに対する価値観が多様化する中、多様なバックグラウンドを持った従業員が個々の考え方や事情に応じて柔軟な働き方を選択でき、性別・年齢・学歴等によらず意欲や能力に応じて自分らしく活躍できる環境づくりを目指しています。

7 人権方針

- 基本的な考え方
イズミグループは、人種・民族・国籍・宗教・思想・信条・性別・

年齢・身体的特徴・性自認・性的指向などによる差別を行わず、あらゆる人々の人格と個性を尊び、人権を尊重します。

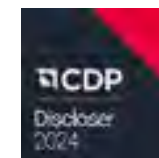
- 適用範囲
「イズミグループ人権方針」は、「イズミグループの全従業員および全社員」に適用されます。また「お取引先様を含むビジネスパートナーや関係者」において、人権に対する負の影響が明らかになった場合、そのビジネスパートナーや関係者に対し、人権を侵害しないよう求めます。
- 人権デューデリジェンスの実施
- 救済措置
- ステークホルダーとの対話
- 教育・啓蒙活動
- 情報開示
- 重点課題 ■個人の権利の尊重 ■労働者の権利の尊重

8 ダイバーシティ&インクルージョン方針

人種、国籍、年齢、性別、性的指向・性自認、宗教、信条、文化、障がい、キャリア、ライフスタイルなどにかかわらず、多様なバックグラウンドを持つ社員が互いに尊重し合い、情報・機会においてすべての人に公平な扱いが保証され、能力や個性を発揮し、働くことを通じてやりがいや成長を感じられる組織であることが、競争力の源泉であると位置づけています。

CDPの環境評価で「B」認定

国際NGOであるCDPIは、世界の主要企業の環境活動に関する情報を収集・分析し、8段階評価を行っています。当社は2024年度の気候変動に関する質問書のスコアリングで上位から3番目の「B」評価を獲得しました。



TCFDへの賛同

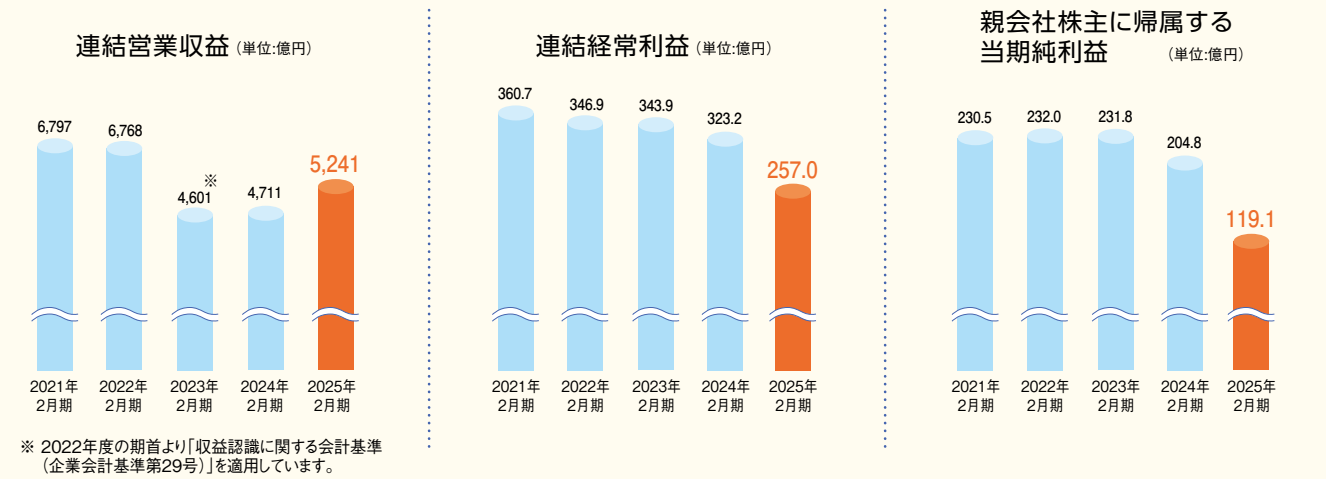
当社では、2022年TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)に賛同。TCFDが提言する「ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標」の情報開示フレームワークに基づき情報開示に努めます。



株主のみなさまへ適時情報を開示

双方向性のコミュニケーションを図ります。

イズミグループ業績概要



株主優待制度による利益還元

イズミでは、利益成長に応じた配当金に加え、株主優待券やギフトカードの贈呈を行っています。また、長期保有特典制度を導入しています。

ご所有株式数	一回当たりの贈呈額	
	株主ご優待券の場合	ギフトカードの場合
100株以上	20枚 (2,000円相当)	500円相当
200株以上	30枚 (3,000円相当)	
300株以上	40枚 (4,000円相当)	
400株以上	50枚 (5,000円相当)	
500株以上	60枚 (6,000円相当)	2,000円相当
1,000株以上	100枚 (10,000円相当)	
2,000株以上	200枚 (20,000円相当)	
3,000株以上	300枚 (30,000円相当)	
4,000株以上	400枚 (40,000円相当)	
5,000株以上	500枚 (50,000円相当)	
6,000株以上	600枚 (60,000円相当)	
8,000株以上	800枚 (80,000円相当)	
10,000株以上	1,000枚 (100,000円相当)	

長期保有特典制度

ご所有株式数	自社商品券の場合	ギフトカードの場合
300株以上	2,000円相当	500円相当
1,000株以上	4,000円相当	1,000円相当

泉美術館ご招待券の贈呈

上記とは別に、泉美術館ご招待券を贈呈しています。

※[株主ご優待券]は、1,000円以上お買い上げにつき、1,000円ごとに各1枚(100円割引券)をご使用いただけます。「株主ご優待券」「自社商品券」の対象店舗はゆめタウン・ゆめマート・サニー・ゆめシティ・LECT・ゆめテラスの各店舗、(株)ユアーズ・(株)デイリーマート・(株)サンライフ・(有)はなわの店舗等でご利用いただけます。専門店によっては一部ご利用できない店舗がございます。
※[ギフトカード]は全国のスーパーやデパート等で幅広くご利用いただけるものを贈呈いたします。
※長期保有特典制度では、現行制度で株主優待券をお選びの方には自社商品券、ギフトカードをお選びの方にはギフトカードを年1回贈呈いたします。

IRコミュニケーションを推進

イズミでは経営企画部が中心となり、定期的に経営戦略や業績に関して株主・投資家のみなさまとの対話を実施しています。年4回アナリスト・機関投資家向けの決算説明会を実施している他、個人投資家向け会社説明会を開催するとともに証券会社が企画する個人投資家セミナーへ参加しています。

ホームページへの掲載情報

月次売上、決算資料、業績推移、株式情報、株主総会、IRカレンダー、決算公告、IR information(英語版)、ニュースリリース、株価情報

IR情報に関するURL

<https://www.izumi.co.jp/ir/>
リニューアルにより、英語ページが従来より充実しました。



コーポレートガバナンスを一層強化

健全な経営で企業価値の向上を図ります。

1) 基本的な考え方

お客さま満足の実現を通じて企業価値の最大化を図り、同時に高い倫理観をもって社会的責任を果たすことにより、お客さま・従業員・取引先・地域社会等のステークホルダーの期待に応えてまいります。

また、中長期的な企業価値向上のため、企業活動の透明性・公正性・生産性を高めることを重要課題として、経営組織の改革や諸制度の整備および内部統制システムの充実等を図るコンプライアンス経営を継続的に推進しており、ステークホルダーに信頼されるコーポレート・ガバナンスの充実に向けて取り組んでいます。

2) 企業統治の体制の概要

■取締役会は、取締役8名(うち社外取締役3名)で構成し、任期を1年とし業務執行の透明性と経営責任の明確化を図っています。取締役会は、原則として、月1回開催し、充実した審議と取締役の職務執行に関する監督が行われています。取締役8名の中から代表取締役2名を選定し、代表取締役の下に取締役を除く執行役員19名を選任して業務執行にあたらせています。

■取締役5名(社外取締役3名を除く)で構成する経営会議において、取締役会付議事項の諮問およびその他経営方針・経営戦略等に関する施策等の決定について、毎週適宜審議を行う体制にしています。

■監査役会は、監査役3名(うち社外監査役2名)で構成し、取締役会においては、監査役に対して取締役会議案に対する客観的な意見を求めるとともに、監査役が取締役の意思決定および業務執行状況の監査をしています。

■適正かつ効率的に経営監視を行うために、4名の顧問弁護士による経営に関する助言・指導をいただいています。

■当社グループ会社の経営状況については、当社社長とグループ会社社長との間において3か月に1回の報告を義務づけ、また、当社グループ経営本部長とグループ会社社長との間で毎月1回の経営課題に係る対応策を協議することを義務づけています。

3) 内部統制システム・リスク管理体制の整備状況

内部統制システム・リスク管理体制の整備状況につきましては、次のとおりです。

■各事業本部とは独立した経営管理部が主管となってコンプライアンス・リスク管理委員会を毎月1回開催し、当社各部門ならびにグループ会社から選出されたコンプライアンス・リスク管理委員出席の下、当社グループ全体のコンプライアンス教育およびリスク管理のモニタリング活動報告について審議しています。当委員会の議事内容については、取締役および監査役に報告しています。

■イズミグループ行動憲章を定め、当社およびグループ会社の取締役・従業員の行動規範として、事業活動における法令遵守に努めています。また、法令遵守の徹底・意識向上のため「イズミホットライン」(内部通報制度)を設置し、当社およびグループ会社からのさまざまなリスク発生の未然防止に努めています。

■事業活動において生じたさまざまなリスクへの対応については、お客さまの安全確保、被害の最小化を主たる目的として、全社連絡体制を整備して対処しており、地震等の災害時においては直ちに緊急対策本部(本部長は代表取締役社長)が設置される仕組みとなっています。

